

年報

私たちの

平成 25 年度

Annual Report 2013



公益社団法人

茨城県理学療法士会

Ibaraki Physical Therapy Association

目次

1. 巻頭著	P.1
2. 表彰	P.2
3. トピックス	P.2
公益法人移行認定の報告	P.2
シンボルマーク・ロゴタイプが新しくなりました！	P.2
茨城県理学療法士会公益社団法人移行祝賀会が開催されました！	P.3
茨城県功績者表彰	P.4
JPTA ニュースの取材を受けました！	P.5
公益社団法人 日本理学療法士協会より	P.5
4. 会長寄稿	P.6
5. 平成 25 年度活動報告	P.11
県民の保健・医療・福祉の増進と支援に関する事業	P.11
学術及び科学技術への振興事業	P.24
普及啓発事業	P.30
会員に関する事業	P.32
就業に関する事業	P.34
各種会議	P.34
事務所機能	P.35
6. 2013 年度 会員動向	P.37
7. 平成 25 年度役員・局長・部長・委員長・代議員名簿	P.39
8. 平成 25 年度賛助会員名簿	P.41
9. 賛助会員広告	P.42

巻頭著



公益社団法人 茨城県理学療法士会 第9代会長 齊藤秀之
(医療法人社団 筑波記念会)

本会は平成25年4月1日に公益社団法人へと移行し、県民の医療・保健・福祉の増進に寄与する公益事業を行う団体に生まれ変わりました。同年7月20日に茨城県保健衛生会館において開催した移行祝賀会には、茨城県知事をはじめ44名のご来賓の方々にご列席を賜り盛会に開催でき、本会への期待を感じました。

公益活動として、まずは北茨城市における在宅医療・介護連携拠点事業を、本会北茨城地域自立支援センターを拠点に本会が事務機能を担い、北茨城市の地域包括ケアシステム構築に寄与するため北茨城市内の職種間連携の基礎を築くとともに、プロボノ登録した会員とともに、地域包括支援センターやケアマネジャー等からの相談や同行訪問、デイサービス支援等の実績を積むことができました。この他、介護予防キャラバン4会場、茨城県看護協会と共同で実施する「まちの保健室事業」での体力測定、理学療法相談8回等、茨城県内において広く事業を展開し、介護予防に対する県民の意識向上を図ることができました。また、茨城県作業療法士会、茨城県言語聴覚士会とともに、茨城県リハ3士会連絡協議会を設立し、3士会の更なる連携強化を図ることができました。

学術活動として、第17回茨城県理学療法士学会を「2050年に向けて理学療法士がなすべきこと」をテーマとして、茨城県立医療大学において2月9日に開催しました。企画のなかの「茨城県臨床工学技士会連携シンポジウム」を通じ、茨城県臨床工学技士会と初めて本格的な学術交流の場を持つことができました。また、理学療法士の資質向上を目的に理学療法士講習会基本編8回・応用編1回、専門領域研修会4回、新人教育プログラムに係る対面研修会21回・DVD視聴研修会（県内16施設）、臨床実習指導者研修会1回を開催しました。

組織強化活動として、事務職員2名体制とし、事業部門を支える管理部門を充実させることができました。さらに、地区ブロック活動の推進に着手しました。県内の二次保健医療圏ごとに地区ブロックを整備し、各地域で説明会を開催しました。地域に根差した公益事業や事例検討会等の専門職の人材育成を展開していくため、市町村が主役となる地域包括ケアシステムへの対応の基礎を築くことができました。

今後、我々理学療法士を取り巻く社会環境は2025年に向けて大きく変化していきます。地域包括ケアシステム構築に向けた理学療法士の人材育成は急務であり、本会はそれに向け、地区ブロックを活用し、市町村担当者を位置づけ、市町村が主役となる地域包括ケアシステムに積極的に参画、対応するとともに、学術・研修活動を通して理学療法士の資質の向上と求められる技能の習得に努めてまいります。また専用事務所を設置し、事務職員を雇用したことを受けて、公益法人にふさわしい統治体制の確立とともに、県民の自助・互助・共助・公助に寄与するためにも、更なる本会の特徴を活かした公益活動の推進に努めてまいります。

関係各位におかれましては、今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

表彰

平成25年度表彰 受賞者

功労賞：斉藤秀之氏（筑波記念病院（現 医療法人社団 筑波記念会）、橋本貴幸氏（土浦協同病院）

※斉藤秀之会長は表彰を辞退

功績賞：咩野洋一氏（水戸市保健センター）、桜井哲也氏（結城病院）

学会賞：三上翔太氏（筑波メディカルセンター病院）

トピックス

公益法人移行認定の報告

業務改革委員会 委員長 大曾根賢一（副会長・事務局長）

この度、茨城県より公益法人の移行認定を受け、平成25年4月1日付をもって公益社団法人茨城県理学療法士会の登記を行うことができました。無事に移行の日を迎えることができたのは、本会役員だけではなく諸先輩方のいままでの努力と会員の皆様の日頃の活動のおかげであると思っております。

この公益社団法人の認定は、社団法人の中でも公益性が認められた法人に付与されるものであり、公益社団法人として果たすべき役割は法制度に基づき公益性を持った事業をしていかなければなりません。

しかし本会の事業は会員への福利厚生事業以外すべて公益目的事業として認められております。そのため今まで通り、学会・研修会などの学術事業、市民公開講座や介護予防キャラバンなどの理学療法普及啓発、相談・指導事業、関連団体と連携して行う事業などを通し茨城県民への公衆衛生の向上に寄与していくことで公益社団法人の役割を担っていくことになります。

思い起こせば、公益法人制度改正をうけ平成20年3月23日第29回定期総会において「公益法人への移行」が承認され、業務改革委員会を中心に公益社団法人への移行準備を進めてまいりました。組織の改編から始まり、主務官庁である茨城県医療対策課からの様々な助言を頂きながら、公益法人制度改正に合わせた新・新会計基準への変更、新定款・定款細則への変更、規程の新設など様々な整備を行ってまいりました。終盤には我々の活動がいかに公益性のある事業であるかを移行申請書類に記載し、平成24年9月28日に申請を行い、平成25年3月22日移行認定を受けることができました。

シンボルマーク・ロゴタイプが新しくなりました！

副会長 大曾根賢一

茨城県理学療法士会は、平成25年4月1日をもって公益社団法人へ移行することができました。これに伴い公益性の高い団体として更なる飛躍の決意をこめてロゴタイプ、シンボルマークを筑波大学芸術専門学群の准教授である木村浩氏に作成を依頼し、一新する事になりました。

デザインにあたってシンプルでわかりやすいイメージ、そして力強さと優しさをコンセプトに作成していただき、最終的な案に対して会員の皆様にパブリックコメントを募集し、公益法人移行後の平成 25 年第 1 回理事会において承認されました。

シンボルマークにおいては、清潔感とさわやかさを感じる「青色」をベースに、組織名の英語表記の頭文字を用い、「要（かなめ）」として●を置くことで平面構成としてのバランスの良さと力強さを表現していただきました。ロゴタイプでは、ゴシック体の固さと強さを和らげる字体を用いて、強さと優しさを表現していただきました。



公益社団法人

茨城県理学療法士会

Ibaraki Physical Therapy Association

茨城県理学療法士会公益社団法人移行祝賀会が開催されました！

特定事業局 次長 後藤吾郎（筑波記念病院）

2013年7月20日（土）に茨城県保健衛生会館4階大研修室にて盛大に茨城県理学療法士会公益社団法人移行祝賀会が開催されました。このような歴史的な瞬間に立ち会うことが出来たのも、今まで士会活動を支えてこられた諸先輩方のお力添えがあったからと考えています。当日は橋本茨城県知事をはじめ、半田日本理学療法士協会会長、高橋水戸市長、関東甲信越ブロック関連団体代表者、県内関連団体代表者、衆参問わず茨城県選出の多くの代議士の先生方にお越し頂きました。

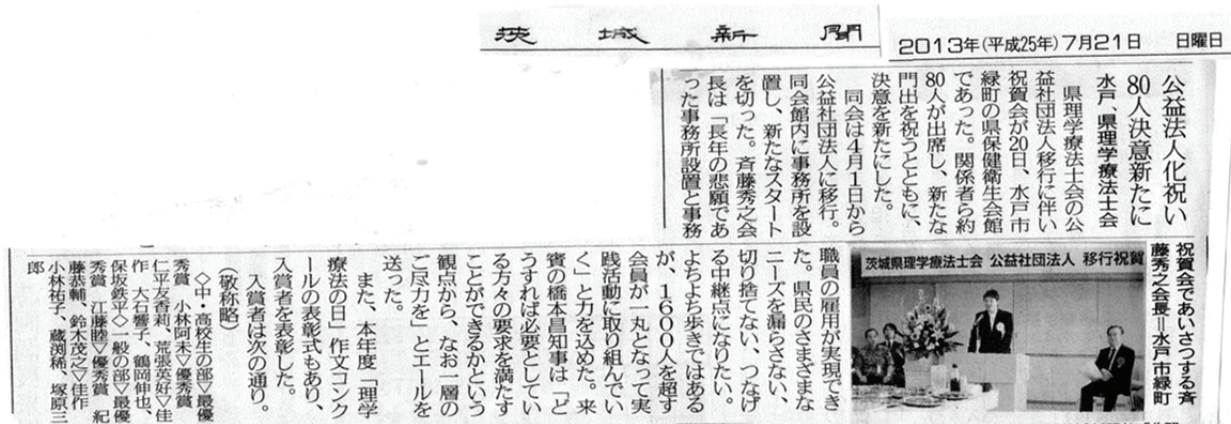
祝賀会はまず斉藤会長より挨拶があり「（公益社団法人に移行するにあたり）我々は色々な意味で大人

の集団にならなければならない。その為の決意表明の日である」と話されました。続いて来賓の方々からは「広く茨城県民の健康を守るために茨城県理学療法士会の存在は大きく、これからの益々の発展に期待している」とお話頂きました。その後公益社団法人移行に際してご尽力頂いた多くの方々に対して当士会より感謝状を贈呈しました。

乾杯をした後、当日スタッフを含めて約100名の方々が祝賀会会場に集まり、懇談会となりました。理学療法士の先輩方からは今までの理学療法の歴史についてお話を頂き、代議士の先生方からはこれからの理学療法に対する期待の話を頂き、我々の責任の大きさを再認識する形となりました。

懇談会の中では当士会の歴史を綴ったDVDを上映しました。DVDの中では茨城県リハ3士会連絡協議会設立、北茨城地域自立支援センター開設、訪問リハビリテーションサポートセンター開設といった最近の動向についても案内しました。

祝賀会の様子が茨城新聞に掲載されました！



茨城県功績者表彰

(社) 茨城県理学療法士会第5代会長岡安利夫先生が平成25年度茨城県表彰(功績賞)を受賞



茨城県は、各分野において県勢の発展に著しい功績があった方などをたたえる茨城県表彰を、毎年11月に実施しています。

平成25年11月13日に県庁において表彰式が行われ、保健衛生の向上に尽力されたことによる功績賞として岡安利夫第5代会長が表彰されました。

先生は平成26年4月7日にご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

JPTA ニュースの取材を受けました！

会報編集部長 森田英隆（いちほら病院）



平成 25 年 10 月 18 日（金）に「北茨城地域自立支援センター」が JPTA ニュースの連載企画である「地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割」に掲載されるための取材を受けました。

（公社）日本理学療法士協会事務局広報課の西村佳代子さんが取材に訪れ、まずはアール医療福祉専門学校をお借りして、斉藤秀之会長、高橋晃弘理事・広報局長が打合せとインタビューを受けました。

北茨城市に移動後、センターの視察と北茨城市立総合病院理学療法士の高木和宏さんへのインタビューの後、北茨城市役所に移動し地域包括支援センター主任ケアマネジャーの鈴木京子さんにセンターについてお話を伺いました。最後に水戸市の本会事務所に移動し、北茨城地域自立支援センター職員として活動されている理学療法士の鈴木和江さんがインタビューを受けました。

北茨城市内のリハビリテーションの現状や理学療法士の役割、北茨城地域自立支援センターの活動や展望など、詳細については JPTA ニュース 12 月号に掲載されました。

公益社団法人 日本理学療法士協会 より

厚生労働省医政局通知（理学療法士の名称の使用等について）について

公益社団法人 日本理学療法士協会 会長 半田一登

平成 25 年 11 月 27 日、厚生労働省医政局から重要な通知が都道府県に出されました。協会執行部としては、介護予防事業等において、診療の補助に該当しない範囲の業務を行うときは、「理学療法士」の名称を用いることや医師の指示を不要とする通知が周知されたという事実を重く受け止めています。会員の皆様においても、理学療法士に求められる社会的な期待と責任を十分に自覚し、これまで以上に医療職として、他の医療職種と連携して適切な理学療法を提供してください。

< 通知文 >

理学療法士が、介護予防事業等において、身体に障害のない者に対して、転倒防止の指導等の診療の補助に該当しない範囲の業務を行うことがあるが、このように理学療法以外の業務を行う時であっても、「理学療法士」という名称を使用することは何ら問題がないこと。また、このような診療の補助に該当しない範囲の業務を行う時は、医師の指示は不要であること。

< 経緯 >

- 1) 昭和 40 年に制定された「理学療法士及び作業療法士法」では、理学療法士の対象は、「身体に障害のある者」に限定されました。
- 2) 法律制定時、理学療法士の業務対象は、脳血管障害・切断・脊損・頸損・骨折・難病がその殆どを

占めていました。

- 3) 昭和 60 年代（奈良会長）に理学療法士及び作業療法士法の改正案を検討しました。
- 4) 少子・高齢社会の到来とともに、理学療法を活用した所謂予防理学療法の推進が求められるようになってきました。
- 5) 予防理学療法を実施する際に、「理学療法士を名乗って良いのか」「医師の指示は必要か」という疑問が浮上してきました。
- 6) 平成 22 年度に厚生労働省医政局主管で「チーム医療推進会議」が開催され、本会会長が委員に選定されました。加えて、方策ワーキングチームに小川副会長が就任しました。
- 7) 平成 25 年度に入り、看護師以外の職種の業務範囲についての論議が始まりました。
- 8) 現行法での理学療法士の業務の対象である「身体に障害のある者」に「身体に障害のおそれのある者」を追加する法律改正を提案しました。

< 考え方 >

1) 開業権について

開業権とは、診療の補助に該当することを、医師の指示なしに行うことです。今回の通知は診療の補助行為以外に対するもので、いわゆる予防理学療法時の業務指針と受け止めることが大切です。

2) 自由診療について

「診療」という言葉は、医師の行為を指すものであり、医療職である理学療法士の行為に含まれることは全くありません。

< 本会としての今後の対応 >

現在、厚生労働省とは多角的に話し合いや交渉を行っています。そうした中で、老健局との関係では介護予防、保険局との関係では生活習慣病予防、労働基準局との関係では腰痛予防が俎上に上がっています。これらは、いずれも予防理学療法に類するものです。

本会としては、新しい国家的ニーズにしっかりと応えることができるように、多角的な研修を平成 26 年度事業から立ち上げ、過去にないような予算配分を行います。

そして、質の高い予防理学療法を確立し、少子・高齢社会に寄与できる理学療法士を目指します。

会長寄稿

プロフェッションとしての振る舞い、なすべき事と社会への還元について ～上半期を振り返り想うこと、下半期に向けて考えること～

会長 齊藤秀之（筑波記念病院（現 医療法人社団 筑波記念会））

平成 25 年度の上半期が過ぎ、振り返ってみました。

後世で振り返った時に本会の大きな転機となる出来事がありました。公益社団法人への移行です。そして本会執行部はその想いを、「北茨城地域自立支援センター」「訪問リハビリテーションサポートセンター」「県保健衛生会館への事務所移転」で県民に現しました。このことは、県内において大人の団体として自立を宣言するものです。秋の夜長、会員各位においても、このことの重みと深みを噛み締め、プロフェッション集団による「公益とは何か」について、恥ずかしがらずに仲間と語り合って、真摯に考

えて欲しい。

そのような想いを、掲載します。

●法令遵守・遵法精神と倫理観が欠如していませんか

建造物侵入、住居不法侵入、窃盗、青少年健全育成条例違反、迷惑行為防止条例違反、自動車運転過失致傷、道路交通法違反、強制わいせつ、収賄、脱税、恐喝、という言葉は皆さんご存知ですか。

理学療法士が上記の犯罪で逮捕され、新聞やネット上で実名が公表され、さらには失職する事態に及んでいます。自分が犯していなくても、同じ国家資格者が遵法精神を犯すことにより、目には見えないところで自分自身に不利益を生じます。気がついた時には手遅れです。世の中の風潮なのかもしれませんが、風紀や常識が昔と違うでは済まされません。

建築士や某有名介護事業経営者などが、自分自身のモラル・ハザードにより、それぞれの業界が国民から信頼を失い、強い規制がなされ、成長が止まってしまいました。

歴史が物語っています。

大前研一さんは、専門家（スペシャリスト）、一般人（ジェネラリスト）と職業人（プロフェッショナル）を区別し、「プロフェッショナルは、感情をコントロールし、理性で行動する人であり、専門性の高い知識とスキル、高い倫理観はもとより、例外なき顧客第一主義、あくなき好奇心と向上心、そして厳格な規律を兼ね備えた人材である。プロフェッショナルはどんなに大きく前提条件が変わってもその底流にある変化の本質を読み取り、誰よりも能力を発揮する。組織の長としては、当該組織を誤りなき方向に導き、発展させる。」と定義しています。

会員一人一人の高い倫理観を求めます。

●利己的、自分本位、部分最適になっていませんか

アメリカの医師教育における「プロフェッショナリズム」は、「患者、家族、同僚との思いやりを通じ、尊敬の念、思いやり、誠実さ、利他性を実践する」「患者や他の専門職の性、年齢、文化、宗教、性的嗜好、社会経済状態、信念、行動、障害に対する感受性と反応性を実践する」ことを教育することとあります。

皆さん、誰かを支援したいと思って理学療法士を目指した志を忘れていないですか。支援するということは、他者の思いを聞き入れずに、自分勝手な自分の考えを押し付けることではありません。ましてや、根拠がない自説を振りかざして、あるいは無視や手抜きという振る舞いはもってのほかではないでしょうか。利用者に自分の考えや治療を押し付けている、利用者から協力的動作を引き出せない場合に、他の手立てを示すことが出来ず、利用者の動機づけや能力に責任を転嫁している理学療法士は利己的ではないでしょうか。あるいは、自分の知らない、あるいは望まない考え方や治療法を実践している部下・同僚・上司をやみくもに否定していませんか。利用者が望ましい方向に変化することを中心に考えるべきであり、自分が実践してほしくない、好まないなど「自分本位」の振る舞いは、自分の属しているコミュニティの文化・風紀を乱している場合があります。「自分本位」に気づいていない振る舞いは醜いものです。また、他職種との会議や交渉において、理学療法士の利益を得たいばかりに、あるいは、不利益を減じたいがために、上手く話がまとまらなかったり、誤解を生じたり、はたまた、人間関係がこじれたりしていませんか。よもや、理学療法士同士でも同じことが起きていませんか。

問題の根源は、「利己的」「自分本位」「部分最適」にあります。解決の突破口は、先に利益を求めるのではなく、相手や回りに利益を与えて、自分に利益を得るという「利他的」「利用者本位」「全体最適」の思想です。

会員一人一人の共感・尊敬の念・利他精神・誠実さで構成されるヒューマニズムと人間の多様性に対する感受性と寛容性を求めます。

●日頃の理学療法を見直す

理学療法の日々の実践が、リスク管理、徒手的治疗、車椅子座位の獲得、歩行練習、実用的 ADL 練習 それ自体の実施にとどまってしまうてはいないでしょうか。

『協会ニュース』No284（2013年8月号）のメッセージは、半田一登会長の嘆きと警鐘としてだけではなく、理学療法士に対する他職種、国民からの評価として受け取るべきことと感じています。まだご覧になっていない会員は協会ホームページ www.japanpt.or.jp/15_jpta_news/index.html にも公開されているのでぜひアクセスしてみてください。

理学療法士は障害学と動作学の専門家です。生態系唯一の二足動物であるヒトの立位・歩行をしっかりと診ることのできる医療職は理学療法士だけです。これはわれわれのプライドであり、価値観です。移動手段としての歩行が獲得できなくても立位・歩行が理学療法として有効にプログラムされ活用できる、これが“理学療法士の^{いちぶん}一分”です。

冒頭に挙げた実践の現状について一つずつ見ていきましょう。

リスク管理

リスクを把握する目的で画像や心電図、血液データなどの所見を読み取るスキルは確かに重要です。しかし、リスクを管理すること自体に振り回されてはいませんか？

「リスクがあるから理学療法の実践が困難だ」、これでは本末転倒です。「リスクは常に一定程度ある。そのなかで廃用が生じたりそれ以上は進まないように、利用者に何か適度な刺激を与えられないか」と考え、可能性と現実的な方法を検討する、これが理学療法の本質であると考えます。無理やり動かすのではなく、どうすれば理学療法をより安全に提供できるかを推論することが理学療法の醍醐味、面白さであり、専門性ではないかと思うのです。

徒手的治疗

理学療法士は他人に対し「用手接触」という方法を用いて評価・治療を行うことを許されている数少ない医療専門職です。触診や徒手療法の専門性を高める姿勢は大いに推奨できることです。しかしながら、半田会長も述べているように、^{さす}擦る、^な撫でることのみに1日のなかの1単位、2単位や数週間の治療期間を費やすことは直ちに再考しなければなりません。われわれは介助から自立を支援する専門家です。依存傾向を支援、助長する専門家であってはならないのです。

車椅子座位獲得

寝たきりの方を座位という抗重力肢位にシフトさせるための働きかけは、理学療法のイロハのイです。しかしここでも、特に急性期や慢性期の病棟、在宅での理学療法で「車椅子乗車練習」という表現が違和感なく使われている点が気になります。そこはやはり「車椅子座位練習」あるいは「車椅子耐性練習」というべきです。車椅子は座位耐性練習のための道具の一つとして活用すべきです。車椅子座位が獲得されたら次はその耐久性を評価し、背もたれ座位が可能か、自分で、あるいは他動的に姿勢を崩したと

きの立ち直り反応など平衡機能の評価へと進み、さらには車椅子操作が可能か、起立動作がどこまでできるか、自ら起立できない場合は他動的に立位をハンドリングして姿勢や支持性を評価する……。それらがわれわれ理学療法士に求められている関わりです。循環器系のモニタリングを実施するスキルがあれば、さらに安全に理学療法が遂行できるでしょう。

歩行練習

「屋外歩行練習」を「お散歩」と呼んだり、他職種からそのようにいわれていないでしょうか？もしも今行っている歩行練習が他職種から見て実質的に「お散歩」であり、「それなら私たちでもできる」といわれたなら、即、「技術移転」すべきです。

理学療法士が行う歩行練習は、歩行獲得、歩行耐久性向上、歩容改善、応用歩行学習といった歩行全般にまつわる動作の習熟が第一義です。その結果として歩行という移動手段が確保でき、人間としての尊厳が保持されるのだと思います。もちろん、自立と改善だけが理学療法の目的ではありません。歩行を移動手段として獲得できない利用者や歩行自立困難な利用者に対しても、歩行という運動課題を課すことで運動機能・精神機能の廃用予防となります。これも立派な理学療法です。われわれには利用者自身の残存機能を使って「歩く」時間を創り出す面白さがあると思います。歩行練習中、少しでも手を離したり手をつなぐ面積を減らすように意識してみましょう。それだけでもきっと変わります。少なくとも「お散歩」には見えないはずですよ。

実用的 ADL 練習

病棟での実用的な ADL 練習は重要です。「過去に理学療法は、実際の生活場面での ADL の自立やその過程を段階的に踏む練習を軽視していた」、この批判は残念ながら受け入れざるを得ません。ですが現在はその反動かとも思えるほど、「ADL の自立」のみを重視してはいないでしょうか。たとえば、いくらそれが退院時の目標だからといって、歩行器での歩行練習ばかり行ったり、非麻痺側での更衣動作ばかりを理学療法室で行っているといった、ちぐはぐな練習風景が見られないでしょうか？

実用的な ADL 練習では、実際の生活場面で行う動作の獲得、定着が目標になります。ここでは、自立するために克服すべき機能障害を吟味しつつ、練習時の難易度を設定し、必要な動作の反復学習を、利用者本人が負担感なく継続できるよう調節しながら、リハ・プログラムの舵を切っていく。そこに理学療法士の醍醐味があるわけですが、それを味わうには各人が対象を正しく評価する力を持つことが必要になります。

「動作分析」は IT に代表されるテクノロジーに勝る、われわれ理学療法士の持つ優れた技能です。可能・一部可能（困難）・困難という評価軸、そして、「どのような動作を支援すれば可能となるか」という残存能力確認の視点を今一度思い出していただきながら、動作獲得に向けた評価～プログラム立案～実施のサイクルを展開しましょう。

会員一人ひとりの理学療法マインドの涵養を求めます。

●2025 年とそれ以降への心の準備

国は 2025 年に向け「地域包括ケアシステム」の構築を政策として推し進めています。今後の方向を視座する、「社会保障制度改革国民会議報告書」をぜひ一読することをお勧めします (<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kokuminkaigi/pdf/houkokusyosyo.pdf>)。

地域包括ケアシステムや地域リハビリテーションというと、急性期や回復期に携わっている会員には関

係ないと思われる傾向がありますが、それは間違いです。ドクターヘリ、救急医療も含めた急性期病院、回復期リハビリテーション病棟（病院）も地域医療の重要な資源です。

今回の診療報酬改正では、亜急性期入院医療管理料、回復期リハビリテーション病棟入院料に続き、7対1入院基本料の要件として新たに在宅復帰が組み込まれました。「これまで急性期病棟では関節拘縮や褥創が発生したとしても、回復期や亜急性期病棟で直せばよいという考えもあったかと思うが、今後はそもそも関節拘縮や褥創発生を予防し在宅復帰を目指した医療が必要だ」とくぎを刺したのです。介護老人保健施設でも在宅復帰率が評価されていることはご存知でしょうか。急性期だけ「あとはお任せ」ではアンフェアだということかもしれません。今回の診療報酬改定に反映されていることから、国の本気度は今までとは違います。取り残されないようにしましょう！急性期から生活を支える、在宅復帰を目標とする理学療法を念頭とすることは、実は当たり前のことです。当たり前のことが当たり前に行われなくなったただけなのです。急性期の理学療法士が在宅に向けた動作指導を実践し、在宅の物理的・社会的な環境調整について実践することも理学療法士の技能であり、求められている専門性です。

さて「地域ケア会議」というキーワードがこれから盛んに叫ばれると思います。簡単に表現すると、皆さんが日頃院内、事業所内で行っているカンファレンスを、地域レベルで、地域包括支援センターの主催で多施設・多職種参画のもとに行うこと、さらには市町村の政策となる提案を行う会議です。

今後、市町村、地域包括支援センターや社会福祉協議会、あるいは他施設から、皆さんへの「地域ケア会議」への出席・参加依頼が少しずつ増えていくと思います。それは皆さんに理学療法士としてのプロの意見を聞きたいためです。一方、「理学療法士は会議に来てもただ腕を組んでひと言も喋らず帰っていく」「ちんぷんかんぷんなことばかり話していく」といった批判も出ています。会議に参加して下さる方はまだしも、「声をかけてもまったく参加してくれない」といった批判の声も聞かれ、「理学療法士は呼ぶ必要がない」と残念な評価を下されても仕方がないケースも見受けます。

理学療法士は理学療法の利益だけを遂行していても社会に評価されません。他者の利益、利用者の利益のために行動する姿勢が必要です。そうした首尾一貫した姿勢がひいては、理学療法士全体への評価につながり、利用者の重症化予防・廃用防止や介護予防につながり、急性期病院入院患者の質の向上、効率的な業務推進……につながっていくはずですが、日頃の業務として院外での間接業務までこなすのは大変だと思いますし、診療報酬体系に収載されていないので自主的な活動とならざるを得ず、管理者にも理解されにくいと思います。しかし、新しい制度は常にニーズから生まれ、専門家がそのニーズに応えることで、創り出されるものです。他分野・他領域からの「お声がかり」というニーズを決して見過ごさず、自らの施設のみならず近隣施設、土会なども広く視野に入れ、ぜひ前向きに対応される方向でご検討ください。なお、お声掛けがあった際には土会事務所にご一報下さい。

外部の会議に出るにあたっては、説明能力などのスキルも求められますが、これは日頃のカンファレンスで十分に鍛えることが可能です。カンファレンス前に当該事例の評価を見直す、理学療法士として意見を述べる、他職種の意見を聞いて考えを再構築する、カンファレンスで決まったことをしっかり実行し定時評価する。こうした取り組みを日頃から意識し、アクティブなカンファレンスを明日からぜひ実践してみてください。それでも、ご心配やお困り事があれば土会事務所にご連絡下さい。土会としての支援を検討します。

会員一人ひとりの病院・施設内から病院・施設外に向けた地域活動への参画を求めます。

平成25年度活動報告

県民の保健・医療・福祉の増進と支援に関する事業

平成25年度茨城県在宅医療・介護連携拠点事業

会長 齊藤秀之（筑波記念病院（現 医療法人社団 筑波記念会））

本会では、平成24年度茨城県地域支え合い体制づくり事業で開設した「北茨城地域自立支援センター」を推進するために、平成25年度茨城県在宅医療・介護連携推進拠点事業を北茨城市で展開すべく県や関係機関と協議のうえ申請し、9月に本会が北茨城市で事業実施することが正式に通知されました。県内9市町村のうちの1つの連携拠点です。日立保健所所管となるこの事業のなかの1つの重要な事業である「北茨城在宅医療介護連携推進協議会」を4回開催します。北茨城地域自立支援センターで従事している会員理学療法士、理事・部長が日々の臨床の合間を縫って、事務所職員とともに事務局として、「理学療法士」の社会的認知と職域拡大に向けて事業を展開しています。こうした事業は全国で実施されていますが、連携拠点として理学療法士会が実施しているのは本会が唯一です。今後の実践的な理学療法士が活動する事業において、会員の皆さんプロボノ活動（専門家による専門知識を活用したボランティア）が必要です。何卒ご協力をお願いします。

I 「土台づくり」事業

1 多職種同士の顔の見える関係の構築のための「きっかけづくり」

①北茨城市在宅医療介護連携推進協議会の設置・開催

構成:委員15名（内、会長1名、副会長1名）

開催日：第1回 平成25年10月16日

第2回 平成25年12月6日

第3回 平成26年2月14日(紙上開催)

第4回 平成26年3月17日

実施内容：平成25年度実施事業の計画・実施結果の報告及び検証 等

多職種連携による事業実施のための問題点の検証と意見の交換 等

②北茨城市地域コミュニティ研究会への参加

2 地域課題を把握するための実態調査

「医療・介護従事者」、「患者・家族」両視点による調査

県内統一の内容にリハビリに関する内容を追加

調査結果の冊子作成

3 専門職種に対する資質向上のための「人づくり」

①北茨城市内施設等の視察調査

実施対象：北茨城市内の施設、リハビリ教室 等

視察内容：関係事業所の実情把握と事業への協力依頼

②北茨城市におけるリハ専門職研修会の開催

テーマ：「高齢者に対する呼吸理学療法」

講師：富田 秀和氏（茨城県立医療大学理学療法学科教授）

開催日：平成26年1月26日（日）

会場：北茨城市立病院 参加者：16名

③北茨城市及び近隣市町村を対象とした非リハ職研修会

テーマ：「リハビリテーションにかかわる専門職の特徴と役割

～理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の立場から～

講師：栗城 身和子氏・古川 裕貴氏・谷田部 麻美氏（やすらぎの丘温泉病院）

開催日：平成26年2月21日（金）

会場：北茨城市役所 参加者：100名

④地域リーダー研修会 北茨城版の開催

・在宅医療・介護の今後の展望と課題 講師：石川尚美氏（日立保健所）

・在宅医療・介護における多職種協働の重要性 講師：一瀬将宏氏（瀧病院）

・地域リハビリテーションの意義 講師：斉藤秀之氏（茨城県理学療法士会）

・グループワークの効果と手法 講師：竹野内章代氏（茨城県社会福祉士会）

グループワーク（地域おける課題の抽出）

開催日：平成26年2月16日（日）

会場：北茨城市役所 参加者：53名

4 地域における課題の共有，課題解消のための取組に対する認識，役割分担などを「見える化」するための「人材育成に係るテキスト作成」

地域リーダー研修会 北茨城版のテキスト作成

5 県民に対する在宅医療・介護の理解を深めるための「意識づくり」

①茨城放送ラジオ番組の制作・放送

「茨城県理学療法士会トークスペシャル～理学療法士の未来とは～」

放送日時：平成26年3月23日 16：30～16：50

放送内容：茨城県健康プラザ 大田仁史氏と茨城県理学療法士会長との対談

②茨城新聞、北茨城市報等各種広告媒体への事業広報の掲載

③介護予防フェスティバル in 北茨城2014の開催

テーマ：－いつまでも生き生き、自分らしくあるために！－

基調講演

「住人参加による介護予防に向けて」講師：大田仁史氏（茨城県立健康プラザ）

シンポジウム

「北茨城市の現状から今後どう考えどう行動していくか」

座長：大田仁史氏（茨城県立健康プラザ）・鈴木京子氏（北茨城市）

シンポジスト：佐藤律子氏（北茨城市立病院）

一瀬将宏氏（瀧病院）

菊池由佳氏（訪問看護ステーションはんどはあと）

鈴木和江氏（茨城県理学療法士会）

講演

「新たな歩行エクササイズ ノルディックウォーキング

～はじめ4本、次は2本、最後も4本が新常識!？」

講師：神地裕史氏（東京工科大学医療保健学部理学療法学科）

開催日：平成26年3月8日

会場：北茨城市市民ふれあいセンター 参加者：260名

II 「仕組みづくり」事業

① 共同利用型訪問リハビリテーション（指導型）事業

相談：23件 訪問18件〈指導型・ケアマネとの同行訪問〉

デイサービスへの支援 2～3回/月

② 訪問リハビリテーションサポートセンター推進事業

相談：2件

III その他

介護予防キャラバン（介護予防フェスティバル in 北茨城2014と同期開催）

平成26年5月22日に開催された「平成25年度 茨城県在宅医療・介護連携拠点事業の成果報告会」の資料は茨城県のホームページからご確認いただけます。

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/koso/localhealth/home-medical-care/h25/05.pdf>

北茨城地域自立支援センター

地域医療福祉推進部長 所圭吾（茨城県理学療法士会）

平成26年3月、北茨城市立総合病院内に事務所を開設し活動を始め1年が経過しました。

センターは、地域のみなさんに対して他職種と協働しながら、理学療法士が関われるあらゆる分野のサポートや各種事業所等のお手伝いをさせていただき拠点として活動しています。

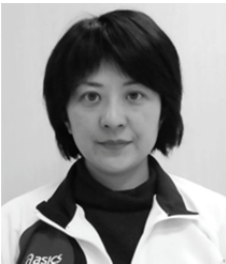
センターの活動周知のため、市内のケアマネジャー連絡会やホームヘルパー会に参加し活動紹介や講師、市内施設にパンフレットの設置等を実施し、少しずつご相談をいただけるようになってきました。平成25年度の相談件数は36件でした。

ご依頼の大多数がケアマネジャーからで、内容は「自宅での運動・リハビリについて教えてほしい」や「住宅改修をするので助言してほしい」がほとんどでした。依頼のケースは、ケアマネジャーと同行訪問をさせていただき、評価・助言・指導を行いました。

また、7名のボランティア登録（プロボノ活動：専門家による専門知識を活用したボランティア）いただき、2月から市内施設視察・同行訪問にご一緒いただきました。登録会員から、職場では経験できないこともあり新鮮だと声をいただいております。



理学療法士紹介



はじめまして、鈴木と申します。地域自立支援センターを北茨城市に立ち上げるといってお話を聞き、同市出身ということもありいろいろなご縁で勤務することになりました。

この1年は、パソコンに向かってする仕事が多く、臨床の経験があまりないので、皆さんにご指導・ご協力いただきセンターの活動を行っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

鈴木和江さん 趣味：温泉巡り 好きな言葉：日々是好日

介護予防フェスティバル

介護予防フェスティバル in 北茨城2014

日立地区会員 鈴木めぐみ（北茨城市立総合病院）

3月8日、「介護予防フェスティバルin北茨城2014」が、北茨城市市民ふれあいセンターにて開催され、スタッフとして初めて参加させて頂きました。

今回は、「どうする？どうなる！北茨城市の保健・医療・介護」「いつまでも生き生き、自分らしくあるために！」をそれぞれテーマとし、基調講演、シンポジウム、特別講演などが行われ、総参加人数261名と多数の方々に参加して頂きました。

第1部の基調講演、シンポジウムでは、茨城県立健康プラザ管理者の大田仁史先生が講師、座長となり、住民主体の介護予防におけるプロボノ精神の在り方や北茨城市の保健・医療・介護の現状、問題点を踏まえた今後の展望についてシンポジストの方々と熱く議論されていました。その中で、北茨城市の現状は、在宅医療と介護連携や介護予防が、県内の他の地域に比べスタッフや事業所の数が少なく、必要なサービスが不十分な状況にあるため、地域住民個人レベルが主体となり、介護予防意識を高めることで、いつまでもいきいきと生活していけることに繋がると感じました。

第2部の東京工科大学地神先生による特別講演では、関節痛を予防する新たなウォーキング、ノルディックウォーキングについてご講演いただき、その後の実演・体験では、使用していたポールを購入したいという方が現れるほどの盛況ぶりでした。介護予防イベントでは、本会の体力測定、理学療法相談以外に、茨城県看護協会・茨城県臨床検査技師会による健康相談や骨密度測定、北茨城市シルバーリハビリ体操指導士会によるシルバーリハビリ体操などが実施され、多くの方が楽しく参加されていました。

普段、地域住民の方々とふれあう機会がありませんので、とても貴重な経験をさせていただきました。

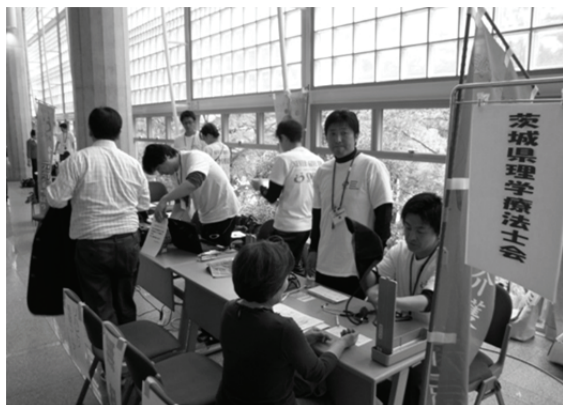


介護予防キャラバン

「第49回いばらき看護の祭典」

期日：5月11日 会場：つくば国際会議場

内容：体力測定及び相談 測定及び相談者数：74名



『古河ふれあい広場 2013』

期日：9月21日 会場：古河市ネーブルパーク

内容：体力測定及び相談 測定及び相談者数：120名



『健康づくりキャンペーン』

期日：9月21日 会場：ニューポートひたちなかファッションクルーズ

内容：体力測定及び相談 測定及び相談者数：160名



「かわちフェスタ2013」

期日：11月3日 会場：河内町中央公民館

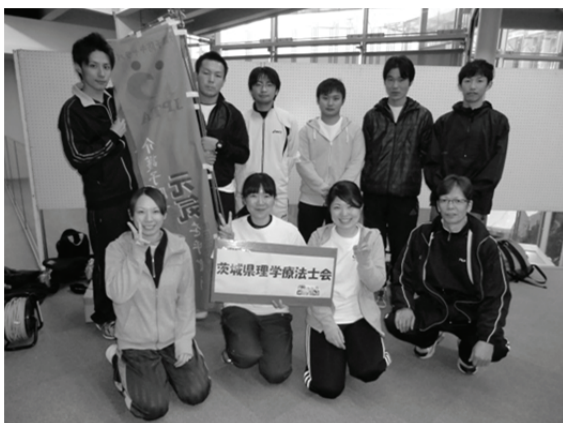
内容：体力測定及び相談 測定及び相談者数：100名



「みんなの生活展」

期日：11月23日 会場：筑西市しもだて地域交流センター アルテリオ

内容：体力測定及び相談 測定及び相談者数：73名



(公社) 茨城県看護協会「まちの保健室」との共同

(公社) 茨城県看護協会・北茨城市シルバーリハビリ体操指導士会との共同介護予防事業報告

日時：平成 25 年 10 月 8 日（火）13：30～15：30

場所：北茨城市 市民ふれあいセンター

対象：北茨城市シルバーリハビリ体操指導士会が実施する体操教室の参加者

内容：看護師による健康相談・血圧測定・血管年齢測定、指導士によるシルバーリハビリ体操実技
理学療法士による体力測定及びカウンセリング・理学療法相談・1 年後の支援

担当：社会機能局：石井利幸 氏、石塚晴美 氏、遠藤卓也 氏、高木和宏 氏、高橋一史 氏、
所圭吾 氏、山梨忍 氏

県北地区会員：赤津雄也 氏、栗城身和子 氏、鈴木和江 氏、田所隆洋 氏、松本幸代 氏

参加者：59 名



まちの保健室

(公社) 茨城県看護協会「まちの保健室」との共同保健活動

●平成 25 年度第 1 回（水戸地区）

期日：平成 25 年 6 月 27 日（木）11:00～12:00

場所：茨城県保健衛生会館

内容：体力測定・理学療法相談

担当：社会機能局：渡邊勸 氏 水戸地区会員：打越俊幸 氏、小西功人 氏、本橋寛樹 氏

参加者：24 名（シルバーリハビリ体操教室参加者対象）

●平成 25 年度第 2 回（鹿行地区）

期日：平成 25 年 6 月 27 日（木）13:00～16:00

場所：鹿島ショッピングセンター「チェリオ」

内容：体力測定・理学療法相談

担当：社会機能局：藤田義隆 氏、杉水流健 氏 鹿行地区会員：菅谷友美 氏、中崎正博 氏

参加者： 体力測定 22 名 相談 5 名



●平成 25 年度第 3 回（常陸大宮ショッピングセンター「ピサーロ」）

期日：平成 25 年 8 月 24 日（土）13:30～16:30

場所：常陸大宮ショッピングセンター「ピサーロ」 1F センターコート

内容：体力測定・理学療法相談

担当：社会機能局：石井利幸 氏、佐藤誠 氏、所圭吾 氏、山梨忍 氏

大宮・ひたちなか地区会員：愛知裕子 氏、白土和希 氏

参加者：体力測定 39 名 理学療法相談 7 名



●平成 25 年度第 4 回（イオン内原）

期日：平成 25 年 8 月 25 日（日）13:30～16:30

場所：イオンモール水戸内原 2F ショップ「ROU」前

内容：体力測定・理学療法相談

担当：社会機能局：井上愛理 氏、岩崎円 氏、所圭吾 氏、渡邊聡美 氏

水戸地区会員：小笠原祐輔 氏、笠原鉄聡 氏、小出彰太 氏、鈴木紀美恵 氏、中村功 氏

参加者：体力測定 64 名 理学療法相談 5 名



●平成 25 年度第 5 回（水戸地区）

期日：平成 25 年 10 月 10 日（木）11:00～12:00

場所：茨城県保健衛生会館

内容：体力測定・理学療法相談

担当：社会機能局：渡邊勸 氏

水戸地区会員：竹市有希 氏、古田英二郎 氏、山田達也 氏、和田祥平 氏

参加者：21 名（シルバーリハビリ体操教室参加者対象）

●平成 25 年度第 6 回（鹿行地区）

期日：平成 25 年 10 月 24 日（木）13:00～16:00

場所：鹿島ショッピングセンター「チェリオ」内

内容：体力測定・理学療法相談

担当：社会機能局：藤田義隆 氏、杉水流健 氏

鹿行地区会員：赤井広彬 氏、中崎正博 氏

参加者：10 名

●平成 25 年度第 7 回（水戸地区・水戸市産業祭）

期日：平成 25 年 11 月 16 日（土）9:00～16:00 17 日（日）9:00～15:00

催事名：第 38 回水戸市産業祭

場所：水戸市総合運動公園体育館

内容：体力測定・理学療法相談

担当：社会機能局：石井利幸 氏、井上愛理 氏、遠藤卓也 氏、栗城身和子 氏、佐藤誠 氏

高橋一史 氏、所圭吾 氏、益子亜由美 氏、渡邊聡美 氏

水戸地区会員：竹井拓也 氏、徳田祐子 氏、根本裕樹 氏、古田英二郎 氏、山田健人 氏

参加者：11/16 体力測定 150 名 理学療法相談 7 件

11/17 体力測定 135 名 理学療法相談 10 件

2 日間合計 体力測定 285 名 理学療法相談 17 件

●平成 25 年度第 8 回（水戸地区）

期日：平成 26 年 2 月 13 日（木）11:00～12:00

場所：茨城県保健衛生会館 別館

内容：体力測定・理学療法相談

担当：社会機能局：渡邊勸 氏

水戸地区会員：堅田明靖 氏、芳賀裕己 氏、藤田直樹 氏、吉田和歌子 氏

参加者：シルバーリハビリ体操教室参加者 25 名

●平成 25 年度第 9 回（鹿行地区）

期日：平成 26 年 2 月 27 日（木）13:00～16:00 場所：鹿島ショッピングセンター「チェリオ」

内容：体力測定・理学療法相談

担当：社会機能局：杉水流 健 氏 鹿行地区会員：高寄尚也 氏、府中達也 氏

参加者：体力測定 13 名 理学療法相談 6 名

高校野球メディカルサポート

第 65 回 春季関東地区高校野球大会 茨城県大会

準決勝 平成 25 年 5 月 4 日（土）水戸市民球場 古澤弦 氏、吉澤隆弘 氏

決 勝 5 月 5 日（日）水戸市民球場 中村功 氏、古澤弦 氏

第 2 回 高校野球メディカルサポート派遣会員研修会

日 時：平成 25 年 6 月 29 日（土） 13:30～19:30

場 所：水戸赤十字病院 リハビリテーション科 理学療法室

内 容：①高校野球メディカルサポートの概要 （講師：金子哲 氏）

②理学療法士に必要なメディカルチェックの実際

（講師：水戸赤十字病院 第 2 整形外科部長 上牧裕 先生）

③投球障害予測システムの紹介 （講師：筑波大学 石井壮郎 先生）

④サポート Q&A （コメンテーター：上牧裕 先生・金子哲 氏・所圭吾 氏）

⑤現場での救命救急処置 （講師：所圭吾 氏）

⑥テーピング技術研修 （講師：田村耕一郎 氏）

参 加：19 名（経験者 12 名、新規派遣会員 7 名）



第 95 回全国高校野球選手権茨城大会

準々決勝 7 月 22 日（月）水戸市民球場・ひたちなか市民球場

遠藤雄嗣 氏・神宮史明 氏・田村耕一郎 氏・吉澤隆弘 氏

準決勝 7 月 24 日（水）水戸市民球場 佐用寛文 氏・田村耕一郎 氏

決 勝 7 月 25 日（木）水戸市民球場 清水貴憲 氏・松本正孝 氏

第 66 回秋季関東地区高校野球大会 茨城県大会（準決勝・決勝・決勝再試合）

期 日：平成 25 年 10 月 6 日～8 日（3 日間）ひたちなか市民球場

活動内容：試合後のメディカルチェック、救急処置等

派遣会員：佐藤正史 氏、鈴木伸 氏、竹井拓也 氏、中村功 氏、古澤弦 氏、松本正孝 氏

第 66 回秋季関東地区高校野球大会 関東大会（1 回戦～決勝）

期 日：平成 25 年 10 月 27 日～31 日（5 日間）ひたちなか市民球場、水戸市民球場

活動内容：テーピング、アイシング、救急処置等

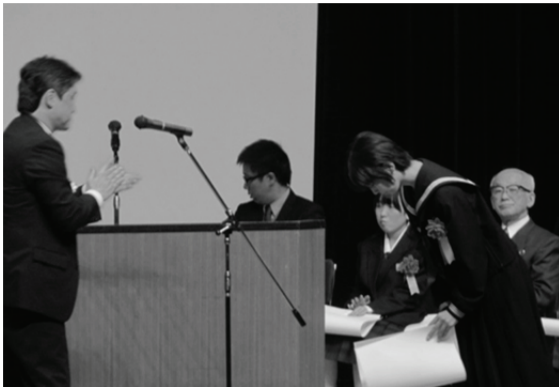
派遣会員：遠藤雄嗣 氏、清水貴憲 氏、竹井拓也 氏、田村耕一郎 氏、中村功 氏、松本正孝 氏

その他

●平成25年度「介護の日」作文コンクール

茨城県理学療法士会 副会長 社会・職能局長 沼尻一哉（茨城西南医療センター病院）

介護についての理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護に取り組む家族を支援するとともに、地域社会における支え合いや交流を促進することを目的として制定された「介護の日」（11月11日）の趣旨をふまえ、県では、介護を必要とする人や介護の仕事をしている人だけでなく、県民誰もが介護について考えるきっかけとするため、介護の日作文コンクールを実施しており、今年度で5回目となります。今年度は637作品の応募があり、審査の結果、茨城県知事賞、茨城県議会議長賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県社会福祉協議会長賞、茨城新聞社長賞、茨城県理学療法士会長賞の各2作品の合計12作品が受賞されました。当会としましては、今後とも県民の皆様をはじめ、市町村、関係団体等との協力・連携により、介護予防等に関する啓発・普及を進め、医療・保健・福祉の増進と支援に寄与する事業を実施していきたいと考えています。



☆茨城県理学療法士会長賞

鉾田市立旭中学校 田口紀香様

「介護から感じたこと」

小豆畑病院 介護職員 鈴木典子様

「母への想いを胸に」

斉藤会長による表彰：平成25年11月20日茨城県総合福祉会館にて

●県内市町村長への渉外活動

- 平成26年第1回合同定例会（市長会・町村長会・町村議会議長会）での説明 -

総務部 飯島弥生（つくばケアセンター）

本会会長が水戸京成ホテルで1月24日（金）に開催された「平成26年第1回合同定例会（市長会）」、および1月29日（水）に開催された「平成26年第1回合同定例会（町村長会・町村議会議長会）」にて、介護予防における理学療法士の活用方法について説明を行いました。この会に大曾根副会長とともに総務部員として同行しました。

この定例会は県と茨城県市長会・同町村会・同町村議会議長会が年4回程度、その時々々の現況と多くの課題の報告・協議を行う場です。過去に県内職能団体が会で発言した前例はなく、本会が初めてとのことでした。

今回、本会は長寿福祉課からの説明という枠で発言しました。まず藤島保健福祉部長寿福祉課長が、茨城県における高齢化状況と介護給付費支払状況について説明され、その上で今後は予防の視点が必要であり、その観点から理学療法士会が活用できるという説明でした。それを受けて斉藤会長より、理学療法士会、理学療法士の存在と名称を会員数などの組織の紹介を織り交ぜ、機能訓練をするだけでなく、リハビリテーションの専門職として、ヒトを全人的に診ることができ、身体能力・動作障害・生活障害

を評価できる職種であること、また病気や怪我をしてからの職能であるだけでなく、病気や怪我をする前の保健・予防の介護予防や、維持期の重症化予防にも寄与できる職能であること、さらに今後推測されている85歳以上人口が増加と生産労働年齢人口の減少のなかで、理学療法士は社会参加を最終目標にしている職種であるため、介護予防・重症化予防が高齢者・障害者等の社会参加・生産活動促進に寄与できることを強調して説明されました。最後に、北茨城市に「北茨城地域自立支援センター」を開設し、周辺地域のリハビリテーションニーズに理学療法士が対応している取り組みや、千葉県柏市の訪問リハ特区について資料を提示し、各市町村においても地域包括支援センター等への理学療法士の登用や行政施策での本会の利用を示唆し、介護予防・重症化予防、高齢者・障害者の健康寿命の延伸と社会参加の促進、および医療費・介護費の削減に役立てて欲しいとお願いしてきました。

日本理学療法士協会からも、地域包括ケアシステムの推進主体である市町村への働きかけの必要性を示唆されており、今回の機会はこの活動指針に位置づけられる大変貴重な時間であったと思います。

本会としても今後は市町村からの相談・要請に対応できる土会市町村対応機能を整備するだけでなく、保健・医療・介護・福祉・教育領域で従事する会員を含めた全ての理学療法士一人一人が地域包括ケアシステムの中で求められる役割の理解とそのための人材育成が重要だと感じました。

●水戸市特別支援学校への外部専門家（理学療法士）派遣

派遣実績：平成25年6月～平成26年3月（計9回）

会場：水戸市特別支援学校 派遣：高橋千晶氏

●「茨城における小児の発達を支える地域リハビリテーションを考える会」への協力

・推薦世話人：石川公久氏

●「茨城県回復期リハビリテーション病棟の会」への協力

・推薦世話人：森田英隆氏

●「高次脳障害者の支援と連携の会」への協力

・推薦世話人：井上克也氏

●茨城県立健康プラザ「介護予防体操相談支援者」派遣会員推薦（4名）

派遣推薦会員：鈴木和江氏、所圭吾氏、藤田義隆氏、渡邊勸氏

●河内町1次予防教室「はっぴーらいふ教室」の開催

期日：平成25年8月19日～28日（全4回）平成26年2月5日～26日（全4回）

派遣：所圭吾氏

●河内町2次予防教室「元気アップ・はつらつ教室」の開催

期日：平成25年10月2日～平成26年2月3日（全26回）

派遣：所圭吾氏

●第4回訪問リハビリテーション地域リーダー育成会議

期日：平成25年5月16日（木）、17日（金）

派遣：押野泰史氏、三浦祐司氏

●「NPO法人茨城県訪問リハビリテーション協議会」への協力事業

・本会推薦理事：押野泰史氏

●茨城県福祉サービス振興会主催研修会講師派遣（茨城県総合福祉会館）

- 「茨城県福祉用具専門相談員指定講習会・茨城県福祉用具供給事業従事者研修会」
派遣：平成 25 年 5 月 19 日（日）直井洋明 氏 6 月 9 日（日）金子哲 氏
- 「リハビリテーションの理解と利用方法」
派遣：平成 25 年 6 月 27 日（木）沼尻一哉 氏
- 「医療サービスの選び方」
派遣：平成 25 年 8 月 7 日（水）所圭吾 氏
- 介護技術・テーマ別研修 「トランスファー（移動・移乗）介助」
派遣：平成 25 年 8 月 21 日（水）渡邊勸 氏、鈴木和江 氏
- 介護技術・テーマ別研修 「リハビリ的介護のポイントと職業病対策」
派遣：平成 25 年 9 月 18 日（水）所圭吾 氏、鈴木和江 氏
- 実技・実習講座 「自宅でできるリハビリ体操」
派遣：平成 25 年 10 月 18 日（金）鈴木和江 氏
- 茨城県福祉用具専門相談員指定講習会 「福祉用具の活用・介護技術」
派遣：平成 25 年 10 月 31 日（木）金子哲 氏
- 介護技術・テーマ別研修 「トランスファー（移動・移乗）介助」
派遣：平成 25 年 12 月 4 日（水）所圭吾 氏、鈴木和江 氏
- 介護技術・テーマ別研修 「リハビリ的介護のポイントと職業病対策」
派遣：平成 26 年 1 月 15 日（水）渡邊勸 氏、鈴木和江 氏
- 平成 25 年度 茨城県ケアマネジャー協会 介護支援専門員研修会への講師派遣
期 日：平成 25 年 5 月 20 日（月）・6 月 1 日（土）
内 容：「訪問リハビリテーション」
派 遣：所圭吾 氏
- 後縦靭帯骨化症 患者・家族会 研修会（茨城県総合福祉会館）
○「後縦靭帯骨化症患者の生活指導について」
派遣：平成 25 年 10 月 27 日（日）直井洋明 氏
- 茨城県介護福祉士会研修講師派遣（茨城県総合福祉会館）
○平成 25 年度リフトリーダー養成研修会
テーマ：「腰痛の原因と対策」 派遣：平成 26 年 3 月 21 日（金）佐藤誠 氏
- 圏域単位の理学療法ネットワークに関する説明会
 - ・取手・竜ヶ崎ブロック
期日：8 月 30 日
会場：取手北相馬保健医療センター医師会病院
 - ・常陸太田・ひたちなか、日立ブロック
期日：11 月 28 日
会場：㈱日立製作所ひたちなか総合病院
 - ・土浦・つくばブロック
期日：2 月 25 日
会場：筑波メディカルセンター病院

学術及び科学技術の振興事業

第 17 回茨城県理学療法士学会

期日：2月9日

会場：茨城県立医療大学

テーマ：2050年に向けて理学療法士がなすべきこと

参加者：230名（会員224名、非会員6名）

学会を終えて

学会長 齊藤秀之

第17回茨城県理学療法士学会の終了にあたり、まずはお詫び申し上げます。当日は前日からの県内全域に渡る大雪による交通障害を来し、演者、講師ならび参加予定の会員の皆様方に多大なるご心労とご苦勞、ならびに危険を強いたことになりました。前日のうちに開催あるいは中止のご案内を行わなかったことが皆様の混乱を招いたことと思います。学会長自身も前日電車に閉じ込められ、復旧の見込みが立たないなかで、連絡手段が確保できず、関係者との連絡が遮断されていました。ひとえに雪国育ちである小生自身の都市生活における認識と危険回避行動の甘さ故であり、謹んでお詫び申し上げます。こうした状況のなか、富田副学会長、倉持準備委員長は冷静かつ適切に対処いただきましたこと、田中副学会長のように、一睡もせずに学会運営に励んでくれた会員におかれましては感謝申し上げます。更にご参加いただきました演者、講師、協賛企業および参加者の皆様にも深く御礼申し上げます。

こうした皆様方のお陰をもちまして、第17回茨城県理学療法士学会は開始を1時間遅らせて実施し、大雪による事故等の報告もなく、予定していたプログラムを参加者229名（会員223名・非会員6名）のもと実施できました。重ねて御礼も申し上げます。当然ではありますが、演題発表では雪の影響により、10演題が当日取り下げざるを得ない状況となりました。学会ならびに士会役員で協議し、所定の手続きにより単位認定に不利益がないように対処することになりました。当該会員におかれましては、何卒ご心配のないようお願いいたします。一方で、ほとんどの演者の皆さんがしっかりと発表され、演題座長の欠席もなく、なかには自然災害を見越して前泊されている会員も見受けられました。私は茨城県のこれからの理学療法士を誇りに思いました。経験10数年以下の中堅理学療法士の皆さんに向けたメッセージとした学会テーマ「2050年に向けて理学療法士がなすべきこと」の意図を感じて頂いたのかと。こうした志のある皆様が次世代を担っているならば茨城県の理学療法士界は大丈夫だと感じました。

さて、今回の学会では、「学会宣言」、「学会長講演」、「特別講演」、「専門理学療法領域のシンポジウム」および「臨床工学技士会との連携シンポジウム」といった新たな企画を盛り込みました。全てを拝聴することはできませんでしたが、特別講演の伊東元氏、居村茂幸氏のメッセージは大変心を打たれました。これから理学療法士が成すべきことを示唆いただき、「まだまだすることはあるな」と、また「ガラパゴス化しちゃいけないな」と深く感じた次第です。我が国の社会情勢から、「地域包括ケアシステム」が社会保障の国策として推進されることとなります。理学療法士の専門性と社会性が問われているものです。学問を基盤とした社会実学である臨床活動が、ことさら重視されている気がしてなりません。両氏とも、「足下を強化しなければ理学療法の未来はない」というキーワードが隠されている内容であったと感じました。「理学療法」とは、「身体に障害のある者に対し、主としてその基本的動作能力の回復を図るた

め、治療体操その他の運動を行わせ、及び電気治療、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加える事をいう」と理学療法士及び作業療法士法（昭和40年6月29日）第2条で定義されています。今一度、「疾患」ではなく「障害」を対象にしていること、その目的は「生理学的指標や臓器の回復」ではなく「主としてその基本的動作能力の回復を図る」こと、方法は「治療体操その他の運動と電気治療、マッサージ、温熱その他の物理的手段」であることが専門性であるという原点に回帰することが必要ではないでしょうか。また、忘れていけないのが「評価」だと思います。理学療法士の専門となる評価を行うこと、そこから根本課題分析、課題解決方法に至る一連のPDCAサイクルを回す、すなわち評価・問題点抽出と統合・目標設定・理学療法プログラム作成・指導助言を含めた理学療法実施のサイクルを回すことです。この一連のプロセスを省略することは学問を基盤としている理学療法とは言えないのではないでしょうか。そして「活動と生活機能の向上と健康増進を促進し、社会参加を支援すること」を実現しなければ社会実学とは認められず、社会性のある領域として評価を受けないのだと思います。まさしく、「地域包括ケアシステム」で求められている理学療法士の働き方です。茨城県理学療法士会でもその活動の場として「北茨城地域自立支援センター」を設立しました。多くの会員諸氏のご協力と、県内各地での同様の取り組みをお願いしたいと思います。なぜなら、「リハビリテーション料としての単位制」、「疾患別リハ」、「回復期リハビリテーション病棟」、「介護保険制度」など、この10数年の制度に指向せざるえない理学療法士の働き方を再考（再興）する絶好の機会が目の前に来ているからです。いかなる分野で従事している理学療法士も、あるいは、様々な事情で就労していない理学療法士も、「自助・互助・公助・共助」のなかで営んでいます。理学療法士がその中心に位置するためにも、オール理学療法士体制で社会の諸問題に取り組みたいものです。

さらに次期の学会長を副学会長として位置づけたことも新たな運営上で工夫をしました。学術のシンボルとするために学会は絶対的なものです。今後は、県内の専門理学療法士を中心に、独立して運営を担って頂くような機関に発展して行くことを願っています。富田副学会長はじめ専門理学療法士の皆様には次年度学会では、そうした機運を高めていただくような大会運営と開催をお願い申し上げます。

最後に、茨城県理学療法士会と皆様の今後の発展を信じて 第17回茨城県理学療法士学会長としてのご挨拶とさせていただきます。



渉外部企画

社会・職能局 渉外部 直井洋明（土浦市役所）

賛助会員やリハビリ機器業者の方々と会員が活発に交流し、意見が交換できるように、企業PRの時間と、機器展示・書籍販売企業、スタンプラリーの企画を行いました。残念ながら大雪の影響で、当日

は多くの企業が展示やPRを中止せざるを得ない状況となりました。

1) 企業PR

時間：13：00～14：30

内容：機器展示企業のPR、プレゼンテーション

参加企業：当初予定7社、当日参加2社（フィジオプラス株式会社、富士通株式会社）

2) 機器展示・書籍販売企業 スタンプラリー

時間：9：20～16：20

参加企業：当初予定12社、当日参加4社（ミナト医科学株式会社、フィジオプラス株式会社、富士通株式会社、インターリハ株式会社）



機器展示・書籍販売企業【計12社】をまわるスタンプラリーを予定しましたが、大雪のため、参加企業が少く、規模を縮小して行いました。そのような状況の中でも、実人数35名、延べ人数76名の方の参加を得ることができました。

参加企業の方々からも「悪天候でしたが、多くの理学療法士の方々とお話できてよかった。」等の感想が聞かれ、当初の目的である会員と賛助会員等との交流・意見交換がある程度達成できたのではないかと思います。それにしても、当日の大雪が残念でなりません。

スタンプラリーに参加していただきました会員の皆様、ありがとうございました。

学術誌・研修会・講習会等

理学療法いばらき

第18巻第1号：平成26年1月発行

平成25年度 新人教育プログラム研修会

	テーマ	講師	参加者
<u>4月28日</u>	<u>会場：つくば国際大学</u>		
第1回	一時救急処置と基本処置	峯岸忍先生（筑波メディカルセンター病院）	254名
第2回	リスクマネジメント	金子哲先生（水戸赤十字病院）	197名
第3回	人間関係及び接遇	浅野信一先生（つくばセントラル病院）	196名
第4回	協会組織と生涯学習システム	倉持修先生（会田記念リハビリテーション病院）	175名
第5回	理学療法と倫理	沼尻一哉先生（茨城西南医療センター病院）	162名
第6回	理学療法における関連法規	大曾根賢一先生（筑波メディカルセンター病院）	154名
第7回	生涯学習と理学療法の専門領域	倉持修先生（会田記念リハビリテーション病院）	157名
<u>6月30日</u>	<u>会場：県立医療大学</u>		
第8回	クリニカルリーズニング	岩本浩二先生（茨城県立医療大学）	206名
第9回	神経系疾患の理学療法	水上昌文先生（茨城県立医療大学）	274名
第10回	高齢者の理学療法	浅川育世先生（茨城県立医療大学）	220名

第11回	理学療法士のための医療政策論	斉藤秀之先生 (筑波記念病院(現 医療法人社団 筑波記念会))	180名
<u>7月21日</u>	<u>会場：協和中央病院</u>		
第12回	症例報告・発表の仕方	鈴木康文先生(つくば国際大学)	114名
第13回	社会の中の理学療法	村田康成先生(石岡循環器科脳神経外科病院)	123名
第14回	ティーチングとコーチング	福山勝彦先生(つくば国際大学)	165名
<u>9月8日</u>	<u>会場：茨城県鹿行生涯学習センター</u> <u>ー 茨城県女性プラザ</u>		
第15回	運動器疾患の理学療法	橋本貴幸 先生(土浦協同病院)	109名
第16回	内部障害の理学療法	中川義嗣 先生(水戸協同病院)	114名
第17回	臨床実習指導方法論	浅野信一 先生(つくばセントラル病院)	66名
第18回	国際社会と理学療法	ジャンチャンキュ先生(アール医療福祉専門学校)	25名
<u>10月6日</u>	<u>会場：茨城県総合福祉会館</u>		
第19回	統計方法論	永井智 先生(つくば国際大学)	79名
第20回	理学療法の研究方法論	斉藤秀之 先生 (筑波記念病院(現 医療法人社団 筑波記念会))	43名
第21回	地域リハビリテーション	大田仁史 先生(茨城県立健康プラザ)	34名

新人教育プログラム視聴DVD研修会

延べ参加者数：542名

県西地区

テーマ	茨城西南医療センター病院	総和中央病院	古河病院
A-1 理学療法と倫理	平成25年10月15日(火)		
A-2 協会組織と生涯学習システム		平成25年10月3日(木)	
A-3 リスクマネジメント(安全管理と感染予防含む)		平成25年10月3日(木)	
A-4 人間関係および接遇(労働衛生含む)		平成25年10月3日(木)	
A-5 理学療法における関連法規(労働法含む)	平成25年10月15日(火)		
B-2 クリニカルリーズニング			平成25年11月6日(水)
B-3 統計方法論		平成26年3月6日(木)	
B-4 症例報告・発表の仕方		平成25年12月5日(木)	
C-4 高齢者の理学療法		平成25年12月5日(木)	
C-5 地域リハビリテーション(生活環境支援含む)		平成26年3月6日(木)	
C-6 症例発表			
D-1 社会の中の理学療法	平成26年1月14日(火)		
D-2 生涯学習と理学療法の専門領域			平成25年11月6日(水)
D-3 理学療法の研究方法論(EBPT 含む)			平成25年11月6日(水)
E-1 臨床実習指導方法論			平成26年2月5日(水)
E-3 国際社会と理学療法			平成26年2月5日(水)

テーマ	協和中央病院	城西病院	結城病院
A-1 理学療法と倫理		平成25年10月9日(水)	
A-2 協会組織と生涯学習システム		平成25年9月25日(水)	
A-3 リスクマネジメント(安全管理と感染予防含む)		平成25年9月25日(水)	
A-4 人間関係および接遇(労働衛生含む)		平成25年9月25日(水)	
A-5 理学療法における関連法規(労働法含む)		平成25年10月9日(水)	
B-2 クリニカルリーズニング	平成26年1月23日(木)		
B-3 統計方法論			平成26年2月6日(木)
B-4 症例報告・発表の仕方			平成25年11月6日(水)
C-4 高齢者の理学療法			平成25年11月6日(水)
C-5 地域リハビリテーション(生活環境支援含む)			平成26年2月6日(木)
C-6 症例発表			
D-1 社会の中の理学療法			平成25年11月20日(水)
D-2 生涯学習と理学療法の専門領域	平成25年10月25日(金)		
D-3 理学療法の研究方法論(EBPT 含む)	平成26年1月23日(木)		
E-1 臨床実習指導方法論	平成26年1月23日(木)		
E-3 国際社会と理学療法	平成25年10月25日(金)		

県南地区

テーマ	筑波記念病院
A-1 理学療法と倫理	平成25年10月10日(木)
A-2 協会組織と生涯学習システム	平成25年10月5日(土)
A-3 リスクマネジメント(安全管理と感染予防含む)	平成25年10月3日(木)
A-4 人間関係および接遇(労働衛生含む)	平成25年10月5日(土)
A-5 理学療法における関連法規(労働法含む)	平成25年10月10日(木)
B-2 クリニカルリーズニング	平成25年10月17日(木)
B-3 統計方法論	平成25年11月21日(木)
B-4 症例報告・発表の仕方	平成25年11月8日(金)
C-4 高齢者の理学療法	平成25年10月24日(木)
C-5 地域リハビリテーション(生活環境支援含む)	平成25年11月22日(金)
C-6 症例発表	
D-1 社会の中の理学療法	平成25年11月8日(金)
D-2 生涯学習と理学療法の専門領域	平成25年10月17日(木)
D-3 理学療法の研究方法論(EBPT 含む)	平成25年11月22日(金)
E-1 臨床実習指導方法論	平成25年11月15日(金)
E-3 国際社会と理学療法	平成25年11月21日(木)

専門領域研修会

- 第1回 平成25年8月25日 「糖尿病と足病変」茨城県総合福祉会館 参加者：9名
- 第2回 平成26年2月11日 「生活環境支援」ホテルマークワンつくば研究学園内 参加者：32名
- 第3回 平成26年3月2日 「茨城県臨床実習指導者研修会」茨城県立医療大学 参加者：22名
- 第4回 平成26年3月8・9日 「神経系疾患」ホテルマークワンつくば研究学園内 参加者：70名

茨城県臨床実習連絡協議会

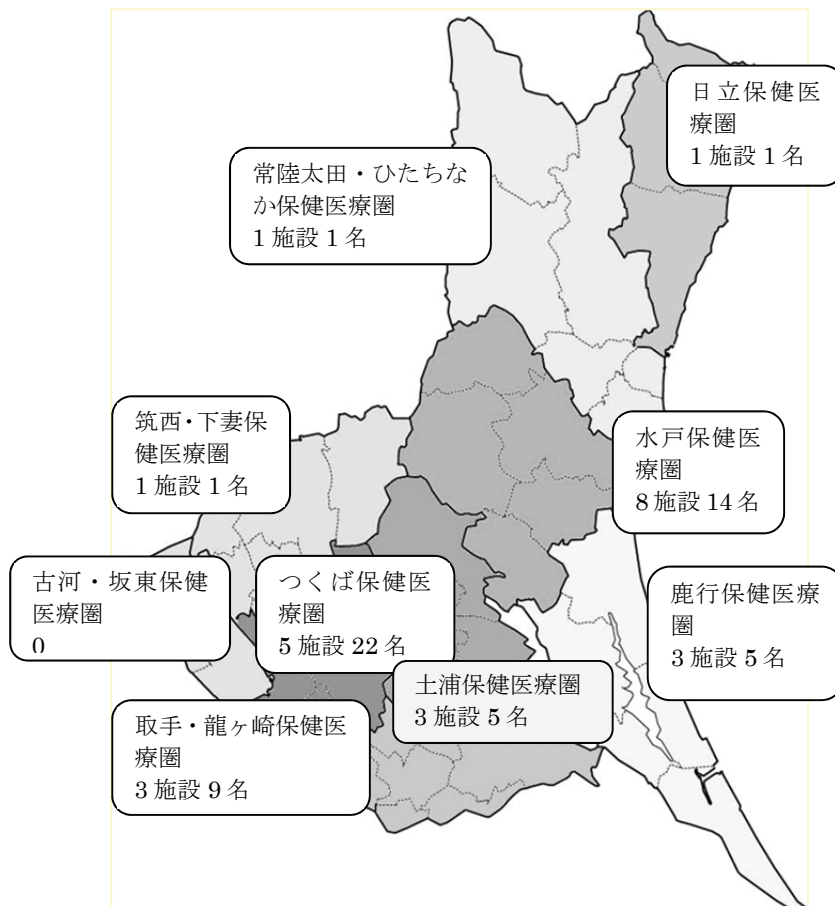
- 第1回 平成25年7月11日 アール医療福祉専門学校
- 第2回 平成25年12月12日 アール医療福祉専門学校
- 第3回 平成26年3月12日 アール医療福祉専門学校

茨城県臨床実習指導者研修会履修者の県内分布

卒前教育部長 浅野信一（つくばセントラル病院）

平成24、25年度2回の県内施設履修者情報について、二次医療圏ごとに開示させていただきます。士会としては、臨床実習指導者の研鑽機会を設ける事で、より良い指導による後輩育成を推進しています。

2014年3月末時点



共催事業（学会・研修会等）

- 第22回(株)日立製作所茨城病院センターリハビリテーション学会
日時：平成25年7月6日 会場：(株)日立製作所日立総合病院
- 第54回つくば地域リハ・セミナー 第17回症例検討会
日時：平成25年8月18日 会場：筑波記念病院
- 第26回いばらき医療福祉研究集会・第7回いばらき歯科医療フォーラム
日時：平成25年10月27日 会場：つくば国際大学
- 2013年度(株)日立製作所茨城病院センターリハビリテーション管理グループ・日立地域リハビリ懇話会新人症例検討会（第86回日立地域リハビリ懇話会）
日時：平成25年12月4日 会場：(株)日立製作所ひたちなか総合病院
- 平成25年度茨城県訪問リハビリテーション実務者研修会
日時：平成25年12月14・15日 会場：デュプレックスセミナーホテル（守谷市）
- 平成25年度茨城県理学療法士連盟研修会
日時：平成25年12月15日 会場：ホテルレイクビュー水戸
- 第11回茨城リハ医の会
日時：平成26年2月16日 会場：つくば国際会議場
- 第55回つくば地域リハ・セミナー 第18回症例検討会
日時：平成26年3月9日 会場：筑波記念病院

普及啓発事業

茨城県看護協会主催 高等学校進路指導説明会

理学療法啓発部長 峯岸忍（筑波メディカルセンター病院）

6月3日（月）に茨城県看護協会大研修室（茨城県理学療法士会事務所の同会館内です）にて高等学校の進路指導教員を対象に実施しました。本会からは大曽根副会長が参加し、理学療法について・理学療法士になるためについて講演いたしました。



理学療法・作業療法・言語聴覚療法見学会

理学療法啓発部長 峯岸忍

8月2日から8月30日の間に県内の38施設で高校生を対象に理学療法・作業療法・言語聴覚療法の見学会を実施致しました。

263名の予定でしたが、247名の参加がありました。

協力して下さいました施設・会員の皆様に感謝申し上げます。

参加者からは、「理学療法などのリハビリは考える事が大事なのだという話を聞いたこと」

「実際にリハビリをしている理学療法士さんを見学できて話を聞いたのが印象に残っている」「リハビリの技術だけでなく、患者さんとのコミュニケーションも大切であり、みんなで良い雰囲気をつくりあげている所が印象に残った」との声がありました。

また、本企画が茨城新聞に掲載されました。

次年度以降も企画しておりますので、宜しくお願い致します。



作文コンクール朗読番組

IBS 茨城放送 (AM ラジオ局) にて、今年度の募集要項と昨年度の受賞作品の紹介を下記の日程で放送しました。

4月12日～5月10日 毎週金曜日 14:45～ 「理学療法 未来へのメッセージ」

4月12日 中・高校生の部 最優秀賞

4月19日 中・高校生の部 優秀賞

4月26日 一般の部 最優秀賞

5月 3日 一般の部 優秀賞

5月10日 一般の部 優秀賞

「理学療法の日」作文コンクール事業

—表彰式を終えて—

報告者：佐川真美 (筑波記念病院)

7月20日に平成25年度「理学療法の日」作文コンクール表彰式が執り行われました。今回のテーマは「理学療法に想うこと」でした。多くの方々のご協力もあり、「中・高校生の部」、「一般の部」を合わせて148通の応募を頂きました。ありがとうございました。

148通の作文の中から、最優秀賞2点、優秀賞4点、佳作6点が選ばれました。表彰式には受賞者、受賞者のご家族、関係者の方々にご出席いただき、表彰式会場には笑顔が溢れていました。

作文の多くは、実際の理学療法の体験、経験をもとに、理学療法士に対する感謝の想いが込められているように感じました。身体だけでなく、気持ちに寄り添う理学療法士の姿勢が表されていました。また理学療法との関わりの中で、自らも理学療法士を志す内容の作文もありました。一方で、これからの理学療法における課題を提示した作文もありました。受賞者からも「自宅でも出来るリハビリの説明が

あまりなく、リハビリの時間しかリハビリが出来ない人が多い」とのお言葉がありました。長年、理学療法を受けられている患者様のご家族だからこそ抱く、理学療法に対する理解と期待を感じることが出来ました。このようなお言葉を頂ける機会は貴重でした。148 通の作文の内容を今後の診療場面の励みとする一方で、改めて自己を振り返り、患者様と向き合っていこうと思わせてもらえる表彰式でした。



会員に関する事業

新人歓迎会

厚生部長 青木葉尚子（笠間市医師会訪問看護ステーションふきのとう）



6月30日(日)、茨城県立医療大学食堂にて新人歓迎会を開催いたしました。62名（新人38名、一般24名）の参加があり、盛大に行われました。

毎年恒例のゲームは、「文章作りゲーム」と題し、グループごとに面白い文章を作成し理事による採点で競いました。採点者の冷静な分析によるコメントが印象的でした。また、閉眼片脚立位で会長賞を決定し、笑顔の多い和やかな会となりました。

施設ごとの新人自己紹介では、職場のアピールをする方も多く、新人らしからぬ落ち着きぶりに驚かされました。今後のご活躍を期待しております。

茨城県理学療法士会・理学療法士連盟忘年会

厚生部 中川あゆみ（神立病院ケアセンター元気館）

平成25年12月15日、ホテルレイクビュー水戸において忘年会が行われました。公益社団法人になって最初の忘年会であり、理学療法士連盟との共催ということもあって、各会長、副会長の挨拶からは、今後の士会員の役割、理学療法士の在り方について特別な思いが受けて取れました。また、会員の情報交換とネットワークを拡げる場であることが忘年会の目的でしたが、例年に比べ参加人数が少なかったものの、小人数が故に会長から次世代を担う新人まで、顔と顔を合わせてじっくり話げできたことについては貴重な機会になったと思います。

第3回賛助会員等との意見交換会

社会職能局 渉外部長 直井洋明（土浦市役所）

今年度で3回目の「賛助会員等との意見交換会」を下記のように開催しました。



この会を通して、賛助会員等から、士会へのご意見・ご要望を伺い、来年度以降の事業計画の参考とすることを目的としました。当日は、賛助会員等から12社16名の方の参加を頂きました。士会からは、斉藤会長、大曾根・沼尻・金子副会長をはじめ理事・部長12名が参加、茨城県理学療法士連盟の佐藤会長や水戸近郊施設代表者にも参加していただきました。

食事をとりながら、和やかな雰囲気でご意見を交換することができました。賛助会員等からは、さまざまなお意見を頂きました。

今後も様々な形で賛助会員や協賛していただける企業のご意見を聞き、それらの意見を具体化していけるような方策を考えていきたいと思っております。

日 時：平成26年1月24日（金）午後6時30分～8時30分

場 所：公益社団法人茨城県理学療法士会事務所 水戸市緑町3-5-35（茨城県保健衛生会館内）

参加者：

賛助会員 3社3名（株式会社 ロングライフ，株式会社 デベロ，株式会社 セキショウライフサポート）

リハビリ機器業者 9社13名（酒井医療株式会社 千葉営業所，OG 技研株式会社千葉営業所，ミナト医科学株式会社 船橋営業所，インターリハ株式会社，伊藤超短波株式会社 関東甲信越営業所，株式会社 常磐第一興商，株式会社 富士通エフサス茨城支店，フィジオプラス株式会社，株式会社志学書店）

茨城県理学療法士会 12名（斉藤会長，大曾根副会長，沼尻副会長，金子副会長，大地理事，高橋理事，直井理事，黒澤監事，高橋部長，森田部長，所部長，國谷委員長）

茨城県理学療法士連盟 1名（佐藤会長）、水戸近隣施設代表者等 1名（佐藤）計30名

就業に関する事業

就業支援部より

就業支援部長 関口春美

会員の皆様へ

日頃より就業支援部の活動に際しご理解・ご協力いただきありがとうございます。
就業支援部では労務関係の相談機関を調査し以下にまとめましたのでお知らせします。
ご参照ください。

相 談 機 関 一 覧（無料相談）

相談先	相談方法	相談日	相談時間	料金	内容
日本産業カウンセラー協会 TEL： 03-3438-4568	電話	月～土曜日	15:00～20:00 (一人30分以内)	無料(通話料金は自己負担)	職場、暮らし、家族、将来設計など、働くうえでのさまざまな悩み
茨城県労働局「雇用均等室」 TEL： 029-224-6288	電話	月～金曜日 (土・日・祝日・年末年始を除く)	8:30～17:15	無料(通話料金は自己負担)	セクシャルハラスメント等の相談
各労働基準監督署内 総合労働相談コーナー	電話	月～金曜日 (土・日・祝日・年末年始を除く)	8:30～17:15	無料(通話料金は自己負担)	労働問題等に関する相談
社労士会労働紛争解決センター茨城 TEL： 0570-064794	電話	平日	11:00～14:00	無料(通話料金は自己負担)	労働問題(解雇、退職、サービス残業、人間関係等)に関する相談

各種会議

●平成25年度 理事会

- 第1回 平成25年5月17日 本会事務所
- 第2回 平成25年6月30日 茨城県立医療大学
- 第3回 平成25年11月15日 本会事務所
- 第4回 平成26年3月19日 本会事務所

●平成25年度 業務執行理事会

- 第1回 平成25年8月3日 筑波メディカルセンター病院
- 第2回 平成25年9月23日 本会事務所

- 第3回 平成25年11月15日 本会事務所
- 第4回 平成26年1月24日 本会事務所
- 第5回 平成26年2月22日 茨城県総合福祉会館
- 第6回 平成26年3月19日 本会事務所

●平成25年度 監査

期末監査 平成25年5月17日 中間監査 平成25年11月15日

●第40回定時総会

期日：6月30日 会場：茨城県立医療大学

●役員懇談会

平成25年4月24日

●新人オリエンテーション

平成25年4月28日 内容：入会案内・会費納入案内 参加者128名

平成25年6月30日 内容：本会活動について 参加者：104名

事務所機能

河野伸子



平成25年4月から水戸にある茨城県理学療法士会事務所に勤務しております河野と申します。主に事務局の事務、会員管理の一部などを担当させていただいております。勤務を始めて間もなく1年が過ぎようとしておりますが、公益法人としてのスタート、事務局の開設と茨城県理学療法士会にとって節目となる年に立ち会うことができ、貴重な経験をさせていただきました。普段は3人で仕事をしております。皆様も是非一度お立ち寄りください。

趣味：お出かけ（近所から旅行まで） 好きな言葉：好日

荒井夏美



みなさん、はじめまして。

平成25年4月より茨城県理学療法士会の事務局で働かせていただいております荒井と申します。主に生涯学習部の補助業務を担当しております。自己研鑽のため研修会に参加される熱心な理学療法士さんの姿を見て、非常に感銘を受けております。その一助となるよう全力でサポートさせていただきますので、どうぞ宜しくお願い致します。

趣味：映画鑑賞（最近では『ペコロスの母に会いに行く』が良かったです）

好きな言葉：失敗は成功のもと

野口祐子



平成 25 年 10 月から事務局でお世話になることとなりました野口と申します。
主に財務関係を担当させていただいております。

勤務して数ヶ月が経ちましたが、全てのやり取りをメールで行うなどこれまでした事のない経験をさせていただいております。戸惑うことも多々ありますが、早く新しい環境に慣れお役に立てるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

趣味：旅行　好きな言葉：七転び八起き

学術誌・学会誌の公開について

会員に情報公開として、関連団体より届いている学術誌・学会誌および各都道府県士会のインフォメーションを閲覧できるようになりました。

日時は限定されておりますが、ご利用ください。

公開資料　：学術誌・学会誌および各都道府県士会のインフォメーション
公開時間　：火・木（祝日除く）14:30—16:30
公開場所　：茨城県理学療法士会事務所

<平成 25 年度に届いた学術誌・学会誌>

東京都理学療法学会抄録集（東京都理学療法士会）

理学療法沖縄 2012（沖縄県理学療法士協会）

理学療法学 Vol.40（日本理学療法士協会）

理学療法学会誌 Vol25（愛知県理学療法士会）

愛知理学療法白書、理学療法学 VOL40

理学療法群馬 No23、No24（群馬県理学療法士会）

北海道理学療法 Vol30（北海道理学療法士会）

創立45周年記念大会北海道ブロックプログラム抄録集(北海道理学療法士会)

理学療法 Vol40(日本理学療法士協会)

2013年度 会員動向について

庶務部長 高橋 千晶（水戸済生会総合病院）

1、正会員・賛助会員

正会員数 1637名（2014年3月31日現在）

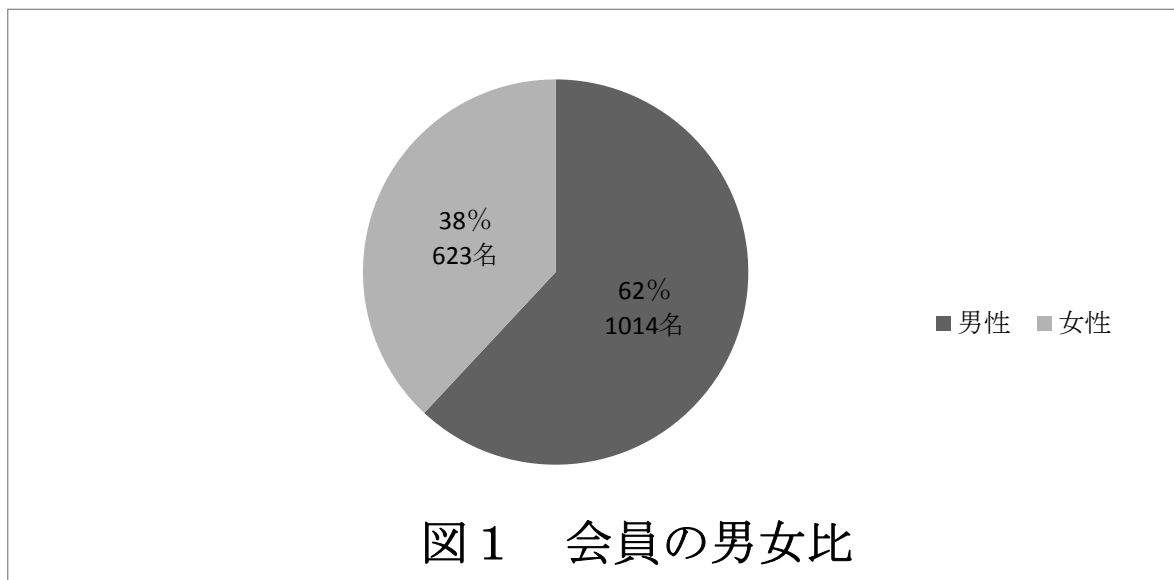
新入会 171名

転入 43名、 転出 52名、 県内異動 221名、 退会 25名、 休会 43名

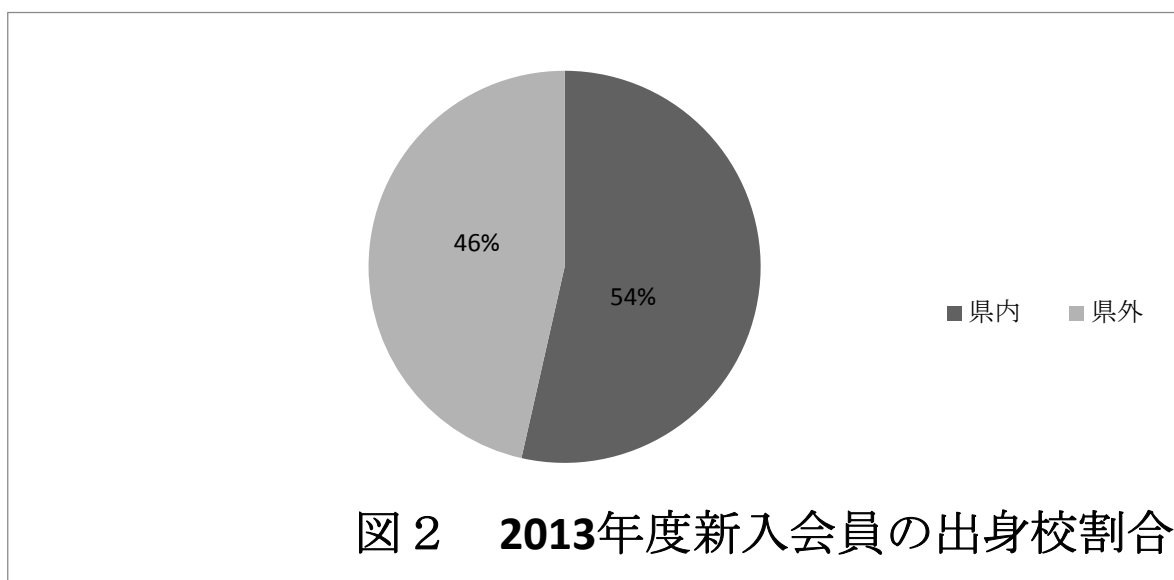
賛助会員 12社（A会員 2社、B会員 5社、C会員 5社）

2、会員データ

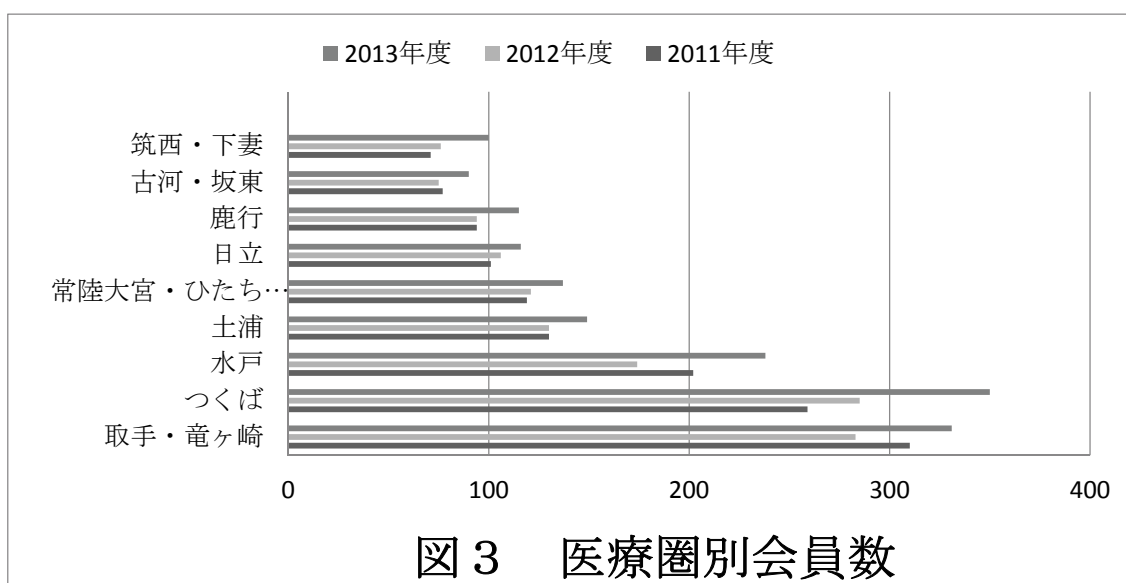
①会員の男女比（図1）



②新入会員の出身校（図2）

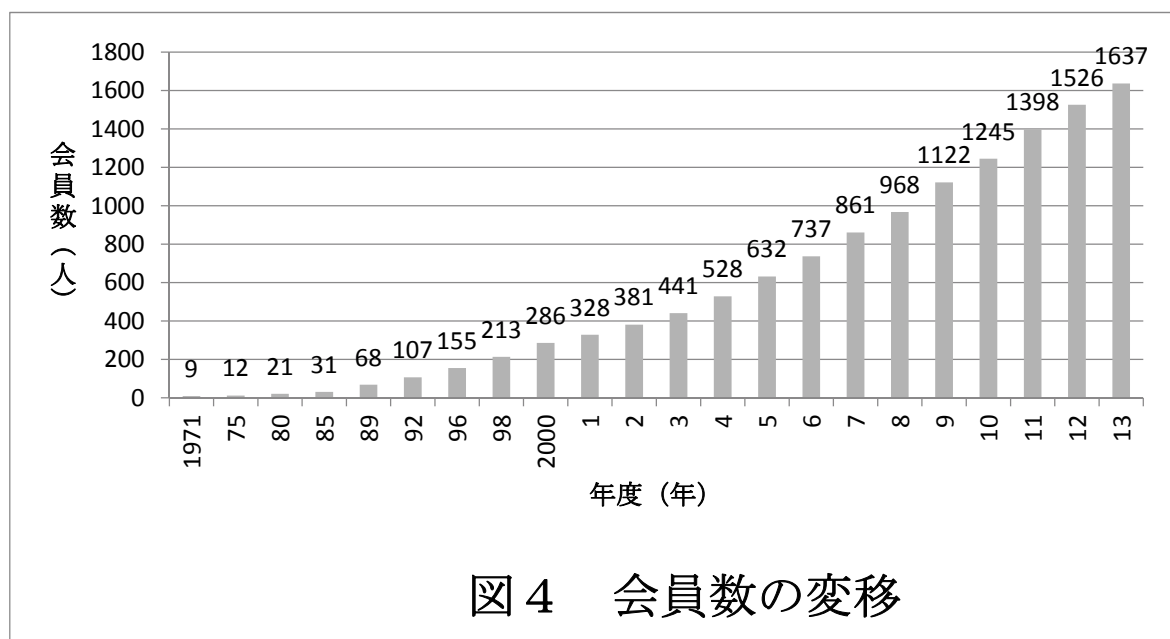


③医療圏別会員数（図3）



取手・竜ヶ崎：龍ヶ崎市、取手市、牛久市、稲敷市、守谷市、阿見町、河内町、利根町、美浦村
 つくば：つくば市、つくばみらい市、常総市
 水戸：水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、城里町、大洗町
 土浦：土浦市、石岡市、かすみがうら市
 常陸大宮・ひたちなか：常陸太田市、常陸大宮市、ひたちなか市、那珂市、大子町、東海村
 日立：日立市、高萩市、北茨城市
 鹿行：鹿嶋市、鉾田市、神栖市、行方市、潮来市
 古河・坂東：古河市、坂東市、五霞町、境町
 筑西・下妻：筑西市、下妻市、結城市、桜川市、八千代町

④会員数の変移（図4）



平成 25 年度役員・局長・部長・委員長・代議員名簿

役職名	理事	氏名	所属
会長	○	斉藤 秀之	筑波記念病院（現 医療法人社団 筑波記念会）
副会長	○	大曾根 賢一	筑波メディカルセンター病院
副会長	○	沼尻 一哉	茨城西南医療センター病院
副会長	○	金子 哲	水戸赤十字病院
事務局 局長	○	金子 哲	水戸赤十字病院
総務部 部長	○	大地 寛	(株)日立製作所日立総合病院
庶務部 部長		高橋 千晶	水戸済生会総合病院
財務部 部長		中山 陽介	茨城西南医療センター病院
厚生部 部長		青木葉 尚子	笠間市医師会訪問看護ステーション
就業支援部 部長		関口 春美	アール医療福祉専門学校
学術・教育局 局長		富田 和秀	茨城県立医療大学
学会・研究部 部長	○	倉持 修	会田記念リハビリテーション病院
学術誌部 部長		高尾 敏文	つくば国際大学
生涯学習部 部長		千葉 浩市	つくばセントラル病院
卒前教育部 部長	○	浅野 信一	つくばセントラル病院
社会・職能局 局長	○	沼尻 一哉	茨城西南医療センター病院
公益事業推進部 部長		村田 康成	介護老人保健施設サン・テレーズ
地域医療福祉推進部 部長		所 圭吾	茨城県理学療法士会
渉外部 部長	○	直井 洋明	土浦市役所
業務推進部 部長		岸 昭博	介護老人保健施設鹿野苑
広報局 局長	○	高橋 晃弘	アール医療福祉専門学校
会報編集部 部長		森田 英隆	いちほら病院
情報システム部 部長		富澤 将人	牛尾病院
理学療法啓発部 部長		峯岸 忍	筑波メディカルセンター病院
特定事業局 局長	○	石塚 保人	(株)アルティー

委員会担当理事	○	大曾根 賢一	筑波メディカルセンター病院
定款組織検討委員会 委員長		浅川 育世	茨城県立医療大学
表彰委員会 委員長		前田 信道	JA とりで総合医療センター
スポーツ支援・国体参画検討 特別委員会 委員長		鈴木 康文	つくば国際大学
選挙管理委員会 委員長		橋本 貴幸	総合病院土浦協同病院
政治検討特別委員会 委員長		國谷 伸一	立川記念病院
監 事		黒澤 保壽	石岡循環器科脳神経外科病院
		橋本 英之	橋本会計事務所
日本理学療法士協会代議員		佐藤 弘行	(株)日立製作所日立総合病院
	○	大曾根 賢一	筑波メディカルセンター病院
	○	金子 哲	水戸赤十字病院
	○	沼尻 一哉	茨城西南医療センター病院
		松井 弘子	取手北相馬保健医療センター医師会病院
		金城 歩	古河市古河福祉の森診療所

平成25年度賛助会員名簿

種別	社名	所在地	電話番号
A	帝人在宅医療株式会社 高崎支店 茨城営業所	305-0034 茨城県つくば市小野崎 260-1	029-855-7410
	有限会社 明星メディカルサプライ	300-0812 茨城県土浦市下高津 3-4-8	029-826-1371
B	有限会社 宮田製作所	185-0023 東京都国分寺市西元町 3-15-4	042-321-0684
	株式会社 ロングライフ	311-4164 茨城県水戸市谷津町細田 1-8	029-257-2345
	株式会社 デベロ	310-0841 茨城県水戸市酒門町 1744-2	029-247-2211
	テクノブレイス株式会社	347-0063 埼玉県加須市久下 1696-1	0480-66-1033
	株式会社 幸和義肢研究所	305-0845 茨城県つくば市大白裕 341-1	029-850-7055
	株式会社 東亜義肢	331-0062 埼玉県さいたま市西区土屋 515	048-622-6200
C	医療法人社団青潤会 青柳病院	310-0817 茨城県水戸市柳町 2-10-11	029-231-2341
	株式会社 三陽	310-0852 茨城県水戸市笠原町 1510	029-243-1281
	有限会社 ヨシフク	310-0841 茨城県水戸市酒門町 1437-3	029-248-5307
	株式会社 茨城福祉サービス	315-0033 茨城県石岡市東光台 4-9-3	0299-28-1829
	株式会社セキショウライフサポート	308-8512 茨城県筑西市一本松 1755-2	0296-25-3220

※平成26年度より種別区分は廃止となりました。

以下、平成25年度時点での広告を掲載しております。

賛助会員広告

TEIJIN
Human Chemistry, Human Solutions

患者さんの
Quality of Lifeの向上が
テイジンの理念です。



帝人ファーマ株式会社 帝人在宅医療株式会社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD(XX)A5X(TB)1201

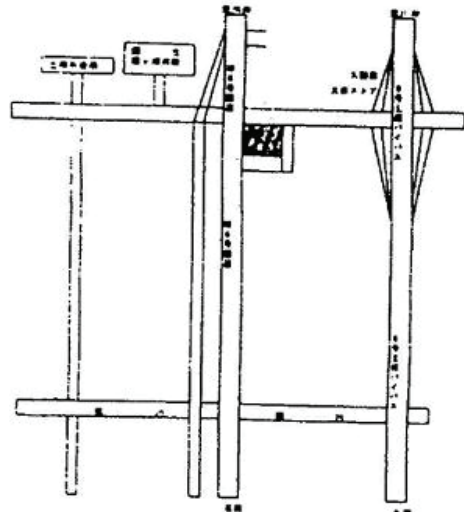
医療機器. 病棟備品. 福祉・介護用品

メイ セイ
有限会社 **明星**メディカルサプライ

〒300-0812 土浦市下高津3-4-8

TEL (0298) **26-1371**

FAX (0298) **26-1372**



コルセット・義肢・義足・補装具・車椅子・松葉杖 製作

有限会社 宮田製作所

〒185-0023 東京都国分寺市西元町3-15-4

TEL 042 (321) 0684 FAX 042 (321) 0692

シルバーマーク認定業者

福祉用具販売・レンタル・住宅改修

株式会社 ロングライフ

本社 〒311-4164 茨城県水戸市谷津町細田1-8
TEL 029-257-2345 / FAX 029-257-2567

那珂営業所 〒311-0105 茨城県那珂市菅谷5487-4
TEL 029-295-7843 / FAX 029-295-0739

土浦営業所 〒300-0872 茨城県土浦市沖新田40-5
TEL 029-841-2422 / FAX 029-841-4404

結城営業所 〒307-0015 茨城県結城市鹿窪向原1305-20
TEL 0296-34-1033 / FAX 0296-34-1034

介護予防支援車 さほとによる 巡回型介護予防 アクティブスマイルプラン



筋トレマシンの持ち運びを可能にした介護予防支援車”さほと”



巡回型だからいつでも何処でも充実した設備で
介護予防教室の開催が可能です



(株) **デベロ**®

本社 ☎ 310-0841 茨城県水戸市酒門町1744-2 ☎ 029-247-2211 大阪支店 ☎ 540-0004 大阪府中央区玉造2-3-17 アルマ・ヒル301 ☎ 06-6945-1722

<http://www.develo-group.co.jp/>



テクノブレイス株式会社

T E C H N O B R A C E



☆取扱品目☆

- 🏥 整形外科治療装具
- 🏥 整形靴・特殊靴
- 🏥 リハビリテーション装具
- 🏥 義手・義足

一人一人に合わせて製作します。どうぞご要望をお聞かせください。

連絡先

〒347-0063 埼玉県加須市久下1696-1

TEL 0480(66)1033 FAX 0480(65)0070

E-mail info@technobrace.com



株式会社 幸和義肢研究所



TX 万博記念公園駅より車で3分

◆ 取扱品目 ◆

義肢・装具・座位保持装置・車いす・補聴器
コンフォートシューズ・福祉用具レンタル

<http://www.kowagishi.com> info@kowagishi.com

茨城県つくば市大白碓 341-1

TEL 029(875)7627 FAX 029(875)7628



TOUA-PO

株式会社 東亜義肢

〒311-0062 埼玉県さいたま市西区土屋 515 TEL 048(622)6200 FAX 048(622)6662

HP <http://www.toua-po.com/> e-mail info@toua-po.com

医療法人社団青潤会 青柳病院

内科・外科・消化器科・循環器科・整形外科・等

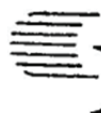
〒310-0817 茨城県水戸市柳町2-10-11



TEL 029-231-2341

FAX 029-231-2350

URL www.aoyagi-hsp.com/



人と職場のベストレーション

株式会社

三陽

水戸(029)243-1281 福島本社(0245)34-3155

いわき (0246)27-7631

郡山 (0249)59-3662

会津 (0242)24-5211

取扱品目 医療機器・臨床検査機器・ME 機器・分析機器

〈関連会社〉

ホルター心電図解析センター

水戸カルディオセンター株式会社 TEL029(241)1155

介護用品・福祉機器 販売・レンタル

有限会社 ヨシフク

茨城県水戸市酒門町 1437-3

TEL 029-248-5307

FAX 029-248-0086

*介護保険指定福祉用具貸与事業所

*住宅リフォームも併せてお気軽にご相談下さい



快適介護のお手伝い

◎福祉用具レンタル・販売 ◎住宅改修 ◎ストーマ器具
明るく清潔なショールームでゆっくりとご相談ください

本社ショールーム

〒315-0033 石岡市東光台4-9-3

TEL (0299)28-1829

FAX (0299)26-8001

●営業時間/AM9:00~PM5:00

●定休日/土曜日・日曜日・祝日

介護ショップ ひまわり

〒309-1705 笠間市東平2-1470-677

TEL (0296)78-0128

FAX (0296)77-0477

●営業時間/AM9:00~PM5:00

●定休日/日曜日・祝日



介護保険指定事業所番号 第0870500022 〒315-0033 石岡市東光台4-9-3

株式会社 茨城福祉サービス

TEL (0299) 28-1829

FAX (0299) 26-8001

自立支援型デイサービスセンター

楽フィット

【名称】 デイサービスセンター楽フィット筑西 【住所】 茨城県筑西市蔵317-1

【TEL】 0296-25-2770 【営業】 月曜~金曜 【定員】 20名 【開設】 平成24年12月

セキショウグループが運営する「デイサービスセンター楽フィット筑西」は、運動を通して、身体も心も元気になっていただくことを目指しています。機能訓練に特化したフィットネスクラブのような明るく清潔な空間で、いつもご利用者様とスタッフの笑顔があふれる、とても活気のある雰囲気の特徴です。



パワーリハビリテーション
と個別機能訓練で機能訓練
に特化した元気になるための
デイサービスです



高齢者施設のイメージを払拭するような明るいトレーニングルームと、ゆったりと寛ぐための空間が明確に分かれており、運動後は、カフェにいるような気分でお仲間と楽しくお話しをしながら過ごせます。

若いスタッフが活躍している
明るく元気な職場です！
雰囲気の良いさとチームワーク
はどこにも負けません!!



理学療法士を募集しています!

詳細はお気軽に下記まで
お問い合わせ下さい。

【運営会社】



株式会社セキショウライフサポート

TEL.0296-25-3220

担当：中島まで

年報 ひたちの 2013

発行日：平成26年7月31日

発行人：公益社団法人 茨城県理学療法士会

代表者：斉藤秀之

事務局：〒310-0034 茨城県水戸市緑町3丁目5番35号

茨城県保健衛生会館内

茨城県理学療法士会事務所

TEL 029-353-8474

FAX 029-353-8475

